

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnoble

Gno G-let

グノレット

保存版

vol.21

2018 年 6 月 発行

東大合格
特集号

医学部合格者
インタビュー併載



グノーブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。
12期生の合格者インタビュー特集。



Gnoble GROUP

12期生 合格者インタビュー

東京大学 **文系** P1-12

東京大学 **理系** P13-32

国立大学 **医学部** P33-47

2018年 東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

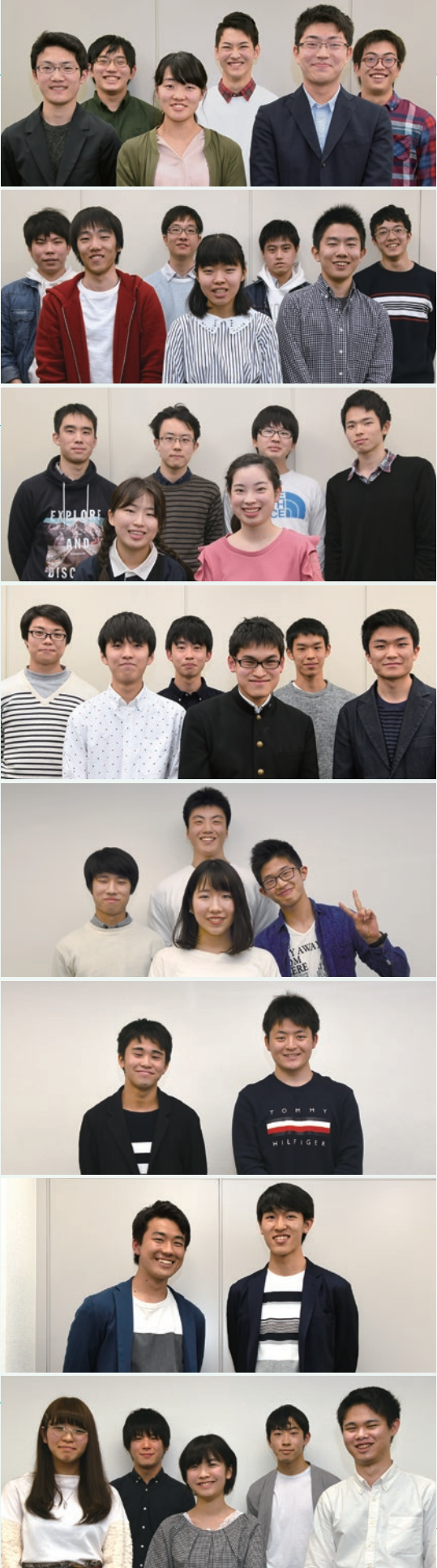
膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

勉強を進めていく時に大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんな時には、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえれると思います。

2018年6月 グノレット編集部

※なお、各インタビューの内容は抜粋版です。グノーブル・ホームページにおいてPDFフルバージョンをお読みいただけます。詳細は各インタビューページの冒頭でご確認ください。



東京大学 【文系】

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

Part 1



あい ようすけ
相 洋輔さん
(文Ⅱ・海城)



うちだ みらい
内田 未来さん
(文Ⅰ・麻布)



きむら かいと
木村 海大さん
(文Ⅰ・麻布)



ど ひ まさたか
土肥 雅高さん
(文Ⅲ・開成)



ば びろく
馬場 啓さん
(文Ⅲ・麻布)



みやこし かやこ
宮越 香野子さん
(文Ⅲ・桜蔭)

Part 2



かね こ ゆうたろう
金子 佑太郎さん
(文Ⅱ・海城)



さとう そら
佐藤 気さん
(文Ⅱ・海城)



さとう ひかる
佐藤 光さん
(文Ⅰ・海城)



そえじま こうすけ
副島 紘介さん
(文Ⅲ・海城)



つなわき なお
網脇 奈保さん
(文Ⅲ・桜蔭)



まつもと いおり
松本 伊織さん
(文Ⅱ・早稲田)



やまもと あらた
山本 新さん
(文Ⅰ・麻布)

12期生 合格者インタビュー

東京大学
文系 Part 1あい ようすけ
相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)き くら かいと
木村 海大さん (文Ⅰ・麻布)ば ば ひらく
馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)うち だ みらい
内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)ど ひ まさたか
土肥 雅高さん (文Ⅲ・開成)みやこし か や こ
宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

●PDFフルバージョンでは、「東大を志望した動機」、
「英語が伸びた時期」、「グノーブルの先生」も
お読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



グノの読み方をすれば英文を行ったり来たりせずにスラスラ読めて、読みやすくなります。
前から解釈していくという、考えてみたらあたりまえの方法を教わったことは
グノに来るまでありませんでした。

宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

入塾のきっかけ

相：中1の冬期講習から入塾しました。その時期に兄が入塾したので、僕もついでという感じでした。母は、兄のことを考えながら他塾と比較してグノーブルを選んだそうです。

土肥：僕も中学の早い段階で入塾しました。僕の場合も親の勧めが大きかったのですが、「受験に特化した塾よりは幅広く学べる塾の方がいい」という漠然とした思いがありました。塾の宿題に追いまわられるよりも学校のことをきちんとしたくて、それでグノを選びました。

内田：僕は中2の最後です。ハンドボール部の友達3、4人がグノに通っていて楽しそうだったので、つられて入塾しました。他塾との比較はしていません。

宮越：私も、部活で仲の良い2人がグノに通っていて、「グノはいいよ」と言っていたので、他塾との比較もせずに高1の春期講習から入塾しました。グノのポスターには部活の先輩も写っていて、グノを身近に感じていたの也有ります。「そろそろ塾に通った方がいいかな?」と考えていた時期で、英語と数学の両方を受講しました。



相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)

馬場：僕は中学の頃から、定期テスト前に英語ははじめに勉強していました。でも、高1になってから、大学受験を見据えて塾を探し始めました。友人にテキストを見せてもらったり評判を聞いたりしたところ、「グノは楽しい」という噂をたくさん聞きました。そこで、高1の冬にグノの講習を受けて、「これだ!」と思い入塾を決めました。

木村：僕は、友達に紹介されて高2の春に入塾を決めました。塾に通っている人にテキストを見せてもらったりして、入塾前はありとあらゆる塾を比較検討しました。その結果、英語力を一番鍛えてくれるのはグノ

だと思いました。僕は英語が好きだったので、大学受験以上の英語力を鍛えたかったんです。

グノーブルの英語

土肥：中1の頃からグノでは声に出して英語に親しむのが普通でした。動詞の活用も声に出して覚えたので、絶対に間違えないくらいですぐに頭に入ってしまう、この頃から「音読はいい」と思っていました。

文章を読むようになってくると今度は、グノで扱う英文は面白い文章が多いことに気づきました。高3になるとグノの授業で毎回楽しい英文に出会えましたし、いつのまにか自分でも、面白い英文をネットで探せるようになりました。

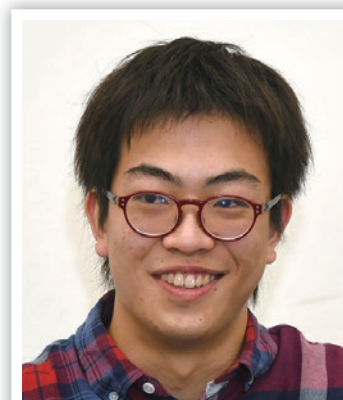
宮越：グノでは、最新の科学研究の話にも英語で触れられて、興味深く読んでいました。例えば、犬の性質を調べた科学研究の英文のこともよく覚えています。実験によると、犬は飼い主に親切でない人からは、餌を差し出されても食べない傾向が強いんだそうです。犬を飼っている私はうれしくなって読んでいました。ありきたりの内容だったり、興味の持てない英文では「勉強のための勉強」になってしまいますが、グノではいつも、勉強していることを忘れてしまうほど興味の持てる英文と出会えました。

強」になってしまいますが、グノではいつも、勉強していることを忘れてしまうほど興味の持てる英文と出会えました。

馬場：本当にグノでは楽しく英語を学べました。面白い英文を読みながら、英語力の向上という結果も出るのでから最高です。他塾に通う周りの友人を見ていると、受験英語に特化した勉強をしていて、とてもつまらなそうでした。息苦しく勉強する塾じゃなくて本当に良かったと思っていました。

相：僕は、小学校の英語は楽しかったけれど、中学に入ってから英語はつまらないと思っていました。でも、グノに通うようになってから、「やっぱり英語は面白い」と感じられるようになりました。文法事項や、受験勉強では切り捨てられる単語なども、理屈や語源までさかのぼって説明していただいたので、興味も湧きましたし、何より英語への親しみを深められたんです。グノの教え方が僕に合っていて、毎週の授業が楽しみでした。

木村：以前、むやみに競争心を煽ってくる塾に通っていたことがあって、先生は怖いし、塾に行くのも全然楽しくありませんでした。そんなトラウマがあって、「できるだけ塾に行きたくない」と思っていたくらいです。でも、グノに入ってから、授



内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)



木村 海大さん (文Ⅰ・麻布)

業が楽しくて、一度も「塾に行くのが嫌だ」と思ったことはありません。

内田：グノでは暗記を押し付けられたことは一度もありません。英単語も語源から説明してくれますから、自然に覚えてしまいますし、1つの単語を覚えると他の単語や知識も関連づけて覚えられるので、知識が広がりがやすかったです。

予備校などでは構文を詰め込むと聞いたことがあります。様々なパターンの構文を覚え込んで、実際に英文を読んでいく時には、その知識を適用しながら英文の構造を解析していくらしいのです。「関係詞の限定用法だから後ろから訳し上げて……」と日本語で考えながら、英語の順番を入れ替えて解釈していくので、間違いが起こりやすいし、読むスピードも落ちます。

一方、グノではネイティブの人が読むように前から語順通りに意味をとっていきやり方を指導してもらえたので、間違いが少なく読むスピードも格段に速くなりました。

宮越：グノの読み方をすれば英文を行ったり来たりせずにスラスラ読めて、読みやすくなります。グノに入るまでは、英文を解釈する時に、英単語を訳して日本語の順番に並べ替えて読んでいました。前から解釈していくという、考えてみたらあたりまえの方法を教わったことはグノに来るまでありませんでした。

相：グノといえば音読です。僕が真

Gno-let

剣に音読に取り組み始めたのは高2の時でした。それまでは、日本語を媒介して英語を読解していましたが、それだとスピードは落ちるし、英語本来のニュアンスも薄れます。でも、音読を始めてからは、英語を英語で読めるようになって、そうすると速読も可能になります。英語力が高まり、海外のニュースも理解できるようになってうれしかったです。

馬場：グノが勧める音読には科学的根拠があります。僕は自分でも言語学の本を読んでみたことがあって、普段グノの先生のおっしゃっていることと同じようなことが書かれており、安心できました。受験の世界では盲信的な勉強法もありますが、グノはそうではありません。実際、音読をすると、読むスピードが上がります。ただ、音読といっても、授業の解説をしっかりと受けていることが前提です。単語や文法事項はもちろん、英文の内容を深く理解していないと効果的な音読にはなりません。

木村：日本語の文章を読む場合でも、文字を目で追っているのに頭では理解できていなくて、ただ読み進めているだけということがあります。僕の最初の頃の音読がちょうどそんな感じで、ただ漫然と読んでいただけでした。

先生が授業で示された音読の指針を聞いた後、「人に英文の内容を英語



土肥 雅高さん (文Ⅲ・開成)

Gno-let

を探してみようというように具体的なアプローチの仕方を提示してくださいました。過去問の解説などで答案を示してくださる時にも、「どうやってその答えにたどり着くのか?」「答えの根拠をどう見つけるのか?」をいつも論理的に教えてくださいました。僕たちが自分で解く時にはどうすべきかの示唆に富んでいて、本当に楽しく参加できました。

グノーブルの環境

宮越：受付に行くときすぐに受付の方が駆けつけてくださって、気持ち良く応対してくださいました。混雑時でも丁寧な応対は変わることがあり



内田 未来さん (文Ⅰ・麻布)

ませんでした。警備員の方も、授業をどこの教室で行っているのかを記載した一覧を持っていて、いろいろサポートして下さいます。塾全体として温かい雰囲気がありました。**相：**僕のミスで直前講習の申込期限が過ぎてしまい、受講できなくなりそうなことがありました。その時にも、受付の方が熱心に対応してくださいました。他塾と比べると、グノの受付は快適な雰囲気があって、「グノは違うな」と思うことが度々ありました。教室や自習室もきれいで、集中できる環境が整っていました。**内田：**振替では何度も受付の方にお世話になりました。授業は少人数が前提となっているのですが、それでも僕たちの用事に合わせて柔軟に振替にに応じていただけました。僕たちが授業に集中できる環境を常に保つ

グノーブルの国語

相：国語は小学校時代から苦手でした。国語は一般的に「どうやって勉強したらいいのかわからない」と言われることが多く、僕自身も本当にわからないままでした。出題される文章は難解で、論理もつかめなし、実生活とかけ離れているテーマで理解しづらいものばかりでした。

でも、高3で東大国語を受講して、どんどん国語の授業が好きになりました。担当の先生は身近な具体例をもとに楽しく理解できる教え方をしてくださいました。一見難解な事柄も、僕たちが言語化して理解できていなかっただけで、けっして縁遠い話ではないことが授業を通してよくわかりました。

センター試験が終わってから二次試験直前までが国語の力を一番伸ばせた時期でした。複雑な論理もつかめるようになりましたし、答案として何を書いたらいいのかも明確になりました。先生は採点基準をはっきり示してくださったので、「自分の解答に何が抜けていたのか?それが抜けてしまったのはなぜか?」を考えることもできました。添削も手厚くしていただけました。

宮越：東大国語の授業は、毎回楽しみでした。東大の問題だからといって変に難しく教えようとするわけではなく、「答えはすべて文章中にある」ということを教えてくださいました。実際、先生が提示する模範解答も、文章中の言葉を使っていることが多くて、納得できるものでした。

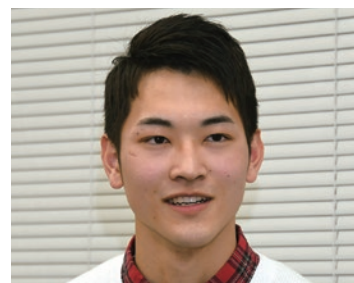
内田：古文の授業も、東大国語も受講しました。とても楽しく受講していましたが、特に印象的だったのは、先生が高いところから僕たちに難解な問いを投げかけてくることは、絶対にないということです。たとえ本文に難解な表現があっても、それを身近な具体例に言い換えてくださったり、論理を読み解くために対義語

いて出したものはちゃんと褒めてもらえます。それがうれしくて、「全部○で出してやる!」という意地が生まれましたし、解けた問題が自信にもつながりました。問題のレベルが自分の1ランク2ランク上だったので、解けた時の喜びは忘れられませんでした。お陰で段々と数学が好きになっていくという好循環が生まれました。クラス全体のレベルも高く、優秀な生徒たちと切磋琢磨できたのも、僕にとっては魅力的でした。

馬場：僕たちの成長を先生は必ず評価してくださいます。きちんと認めてくださるというのは一貫していて、とても素晴らしいところでした。

宮越：セルフチェックシートには◎○△で出来具合を書くのですが、◎を付けることができた問題でも、偶然解けたのではダメで、必然の正解が求められました。自分がやったことを振り返って記入するセルフチェックシートはそのためにも役立ちました。

馬場：グノのセルフチェックシートは大量に書かなければなりません。自分は何ができなかったのかを自己分析して、これからどうすべきかを自分で書いて、先生がそれを見ているにアドバイスをしてくださいます。授業では、皆ができている問題を解説し、別解も示してくださったので、とても勉強になりました。数学は受験科目のひとつにすぎませんでしたが、できるようになってくると楽しみに変わっていききました。



相 洋輔さん (文Ⅱ・海城)

感謝しています。

馬場：僕も、膨大な板書が始まった最初の授業には衝撃を受けました。しかも、その頃のテスト演習では全然正解できないし、「今まで数学で何をやってきたんだろう?」と虚しくさえなりました。

でも今思い返せば、ただ楽しく数学に向き合う時期から抜けて、より自覚的に道具を使いこなして高度な問題にも対処できるようにする時期だったのだと思います。毎週内容の濃い上質な授業と問題が用意されていて、その問題と格闘する日々が続きました。大変だと思いつつも続けているうちに、数学で使う道具を使いこなせる満足感を味わえるようになったんです。振り返って見ると、とても充実した日々でした。

相：僕は、算数は好きでしたが、中学から数学になって、思うようにできなくて自信をなくしていました。そんな僕が高2の春、理解不能の膨大な板書と、全然解けないテスト演習に出会ったわけですから大変でした(笑)。

セルフチェックシートの存在で救われました。自分のことを自分で振り返って書くのがセルフチェックシートですが、先生が一人ひとりのシートに目を通してくださってコメントも残してくださいます。○を書



宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

ノの特徴があります。普通の塾は、過去問の研究にこだわって、志望大学合格を最大の目標として対策を練っていくと思います。一方、グノは、本当の英語力を鍛えて真っ向勝負という方針です。僕自身も、グノの方針に従って過去問を1年分しかやらずに東大を受けました。今年は問題形式が大きく変わったと言われていますが、僕はそんなことを気にせず落ち着いて解くことができました。それでTLP*²に選ばれたので、グノの方針は間違っていなかったと思います。

グノーブルの数学

宮越：以前は、数学は先天的な才能がものをいう教科だと思っていました。小学生の時の算数も、「こうだからこうやってやるんだよ」と言われても、私にはいつも「何で?」と疑問が湧くばかりでした。

でも、グノのお陰で、先天的な才能がなくても、努力する方法があるとうわかりました。グノの数学の授業では、膨大な日本語の板書があり、最初は何も考えずに手を動かして続けました。とにかく板書の量がすごいし、慣れていない言い回しも多くて、授業が終わった後に見直してもよくわからなくて、当時はただ必死に書き写していました。

ですから、最初は結構辛かったです(笑)。でも、やがてその板書が、数学を俯瞰して、数学的な行動原理を自覚化する貴重なツールになりました。先天的な才能を持っている人たちが何気なくやっていることを、私たちも行えるようにするための魔法の杖みたいなものなものでした。

それに、グノの数学の先生は、私たちに合った問題をいろいろ用意してくださったり、生徒一人ひとりのセルフチェックシートを見てくださったり、私たちのために大変なことをしてくださいました。本当に



馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)

のまま伝えるつもりになって音読するのが大切なんだ」と改めて実感して、その通りにやってみようとしたら、それが意外に難しくて……(笑)。でもそれを続けているうちに効果が出てきて、1年経てみたら英文を読む感覚が大きく変わりました。

内田：グノでは毎週、音読するのにちょうどいい長さの、興味の持てる英文が用意されます。それにはGSL*¹もついていて、授業で解説されたことを考えながら音読していました。GSLに合わせて音読をする時には行ったり来たりしている暇はありませんから、英語の語順で頭を働かせ続けていました。お陰で、前から意味をとっていく力が自然と身につきました。

宮越：黙読だと何となく読めているつもりで読み流すところも、声に出して音読していると「あれ?ここはわかっていない!」となることがしばしばありました。英文の切れ目を考え直してみると、「そういうことか!」とわかることがあって、音読していると英語の感覚が磨かれていくように感じていました。

土肥：僕の場合、グノには長く通っていたので、英語を前から読むということはあたりまえのものとして培われていました。お陰で受験学年になっても、音読は思いついた時にちょこちょこやる程度ですみました。

内田：過去問を重視しない点にもグ

*1 GSL (Gnoble Sound Laboratory) : 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

*2 TLP (Trilingual Program) : 「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位1割程度に入った学生に認められています。

Gno-let



木村 海大さん (文Ⅰ・麻布)

のは大変だと思います。

馬場：僕も、2週間に1回くらい振替をしていたので、受付にはだいぶお世話になりました。入り口に立っている警備員の方も必ず挨拶をしてくださって、顔まで覚えてくださいました。グノの前を別の用事で通過する時も、「今日は用事がないの？」と声をかけてくださったんです。暑くても寒くても僕たちを見守ってくださるのがありがたかったです。

木村：入塾直後に自宅のパソコンの調子が悪くて、GSL をダウンロードできずにいた時期がありました。新しくパソコンを買い替えたタイミングでUSB を受付に持っていったら、学期中すべての音声を入れてくださいました。至れり尽くせりの受付には感謝しかありません。

土肥：僕も振替には救われました。中学生の頃は、早い時間の授業を受講することにしておいて、その日に用事が入ったら振り替えていました。講習も締切のぎりぎりになって申し込むことが大半でしたが、それでも受付の方が受理してくれました。グノは、生徒が希望の教室で希望の授



土肥 雅高さん (文Ⅲ・開成)

業を受けられるようにと、いつも取り計らってくれる塾でした。

後輩へのアドバイス

土肥：英語は音読を強くお勧めします。僕自身は伸び悩んでいた時期も経験していて、その原因は音読をしていなかったからだと思っています。後輩の皆さんにはスマートに英語を勉強してほしいので、ぜひ音読を習慣化してほしいと思います。

宮越：私も音読をお勧めします。他の教科に関しても、信頼している先生に「やっておこう」と言われたことは、速回りをしないためにも、自分なりに工夫するためにも、まずはやってみることが大切です。先生を信じて、自分の力も信じて、受験勉強をがんばってください。

馬場：英語の音読や数学のセルフチェックシートなど、グノの先生方を信じてやっていけば東大も簡単に入れます。僕は、英語だけでなく古典でも音読をやっていて、それでどちらも伸びました。それから、数学で教わったフローチャートを地歴でやったら地歴も伸びました。グノの先生のおっしゃることはいろいろな教科に応用できます。グノーブルで学んだことを活かしながら、受験勉強を楽しんでほしいと思います。

内田：グノの音声教材をガンガン使って、他のことには浮気せず、グノの授業の復習だけに集中するのがいいと思います。授業中で「わからない」「初めて出てきた」ということはこまめにメモをとって、何度も見直すことをお勧めします。僕は、授業で解説された教材を流し読みも含めて何周もして読み込んでいました。それで僕はTLP に選ばれたので、グノを信じてついていけば大丈夫です。

木村：高3になると英語の読解は、毎回要約の演習から始まります。採点もされるので点数は気になりますが、点数よりも大事なものは、どんな



馬場 啓さん (文Ⅲ・麻布)

点数であっても「真剣に授業を吸収し尽くしてやるぞ!」という心意気です。点数がいい時にも浮かれていないで課題を見つけるべきだし、点数が悪い時には特に真剣に解説を聞くことが大切です。漫然と塾に来て授業を受けるだけではいけません。グノを徹底的に利用しましょう。

相：英語の話が続いたので、僕は数学で締めたいと思います。僕は、グノの数学で自己分析の大切さを学びました。自分が解けなかった問題を解けないまま残して解法だけを知っても、その経験を次の問題には活かせません。「なぜ間違ったのか?」を追求し、正解にたどり着くための思考過程を意識することが大切です。この自己分析の視点は、数学だけでなく他教科にも応用できます。

他にも、英語で論理展開を意識することの重要性を知って、それが国語にもつながったりと、1教科だけでなくあらゆる教科がリンクしています。だからこそ、1教科だけに絞って物事を見て、視野を狭めない方がいいと思います。

それから、僕は高3の11月に



宮越 香野子さん (文Ⅲ・桜蔭)

「自分ではできない」というスランプに陥りました。この時、相談した先生からいただけたのが、「自己分析すれば、スランプだと思っていたこ

とが成長の糧になる」というアドバイスでした。この言葉を信じて勉強を続けていたら、センター試験が終わってから伸びを実感できました。

受験生は最後の最後まで伸びます。だから、「自分はダメだ」と自暴自棄にならず、諦めずに自分がやっていることを貫いてください。

12期生 合格者インタビュー

東京大学 文系 Part 2

かね こ ゆう たろう 金子 侑太郎さん (文Ⅱ・海城)

さとう ひかる 佐藤 光さん (文Ⅰ・海城)

つなわ き な お 綱脇 奈保さん (文Ⅲ・桜蔭)

やまもと あらた 山本 新さん (文Ⅰ・麻布)

さとう そら 佐藤 気さん (文Ⅱ・海城)

そえじま こうすけ 副島 紘介さん (文Ⅲ・海城)

まつもと い おり 松本 伊織さん (文Ⅱ・早稲田)

●PDFフルバージョンでは、「東大を志望した動機」、「グノーブルの先生」、「グノーブルの環境」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



グノの英語は、どのクラスでも授業の質が高いので、下のクラスにいても気にしなくて大丈夫です。もちろん、クラス分けテストで本気を出して上のクラスに上がれば素晴らしいことですから、テストを1つの目標にして勉強するのもいいと思います。

山本 新さん (文Ⅰ・麻布)

入塾のきっかけ

綱脇：中1の時からグノーブルの名前は知っていましたが、とりあえず他塾に通っていました。でも、中3の時、たまたま手にしたグノのパンフレットに心惹かれて、まずは春期講習に参加してみました。グノは、それまでの塾とは全然違っていました。授業の密度が濃いので新しい知識をたくさん得られるし、しかも楽しいので無理なくついていけると思いました。「ここで最後まで学び続けられれば行きたい大学に行ける」と感じました。英数で入塾して、後から国語も受講しました。

山本：高1の春に英語の塾を探していて、他の予備校の授業を受けましたが、とても微妙でした。そんな時、グノの説明会に参加したら、英単語の語源の話がとても面白くて、「こ



金子 侑太郎さん (文Ⅱ・海城)

こで勉強したい!」と思いました。

佐藤(気)：中3の終わり頃から「そろそろ塾に行って学力を伸ばしたい」と思って、大手予備校に入りました。でもそこの授業は、予習した範囲の解説を聞くという受動的な内容でした。授業中に自分で考えない

と眠くなったり退屈になったりするので、授業内演習を積極的に取り入れている塾に転塾したいと思うようになりました。それで、すでにグノに通っている友人から話を聞いて、グノへの入塾を決めました。

松本：僕の場合、高1の時に「英語の学力が足りない」と感じ始め、高2の春に「英語だけでも塾に入ろう」と思って塾を探し始めました。たまたま友達の何人かがグノの英語に通っていたので、それで説明会に参加してみたいです。「グノの英語は面白い!」と思って入室テストを受けました。それまでの英語は「暗記するだけ」というイメージで、どうも好きになれませんでした。一方グノは、単語は語源から解説されるし、語順のままの解釈を重んじていて、耳や口も積極的に鍛えたりと、英語の本質が感じられる授業でした。

Gno-let

授業の進め方も受け身ではなくて能動的に勉強できる環境でとても魅力的でした。

佐藤(光)：高2の春に、高校の授業だけで英語を勉強することに限界を感じていました。他塾も検討はしましたが、大手の塾では一人ひとりを見てもらえないだろうし、受験に特化している雰囲気 of 塾も嫌だったので、候補から外しました。英語の評判が良いグノの講習に参加してみて、初回からすっかり気に入りました。

金子：僕は、高1の途中から「そろそろ塾行かないか」と思って、副島君と話し合っ「一緒に同じ塾に入ろう」という流れになりました。いろいろ調べているうちにグノの英語の評判が良いことがわかり、それがきっかけで入塾を決めました。

副島：友達のテキストを見せてもらって、どの塾にするかを金子君と話し合いました。それで受けてみたのがグノの高1の冬期講習でした。グノの授業は目からウロコが落ちるような経験に満ちていました。知らないことがたくさんあって驚き、その上、解説が明快で面白くてそれも驚きでした。

佐藤(光)：塾の授業の雰囲気や進め方を僕も友達に聞きました。僕たちの学年は海城にグノ生が多かったので、判断材料には困りませんでした。

松本：僕の学校も、様々な塾に通っ

ている友達がいたので、話を聞く機会は多かったです。「どういう授業を受けたいか？」と考えながら塾を選んでいたので、友達の話が一番大きな情報源になりました。僕は「授業中に頭を使いたい」というのがあって、予習重視よりも授業内の演習重視のグノに魅力を感じました。

山本：入塾時には友達の話を聞いていませんが、僕が入ったのは基礎クラスだったので、入塾してから、上のクラスにいた優秀な同級生に復習のやり方や上のクラスの教材のこと、授業の様子などをいろいろ聞いていました。

網脇：私も友達から話を聞いたわけではありません。中3までの友達は全員他塾だったからです。グノに通うようになってから、私が友達に「グノいいよ」と勧めていました。

グノーブルの英語

網脇：グノの英語では、授業が始まってからしばらく演習をしますが、それが他塾にはない特徴です。他塾は予習前提ですが、それだと自分でいろいろ調べられるので、自分がどこまでわかっていて、どこからわかっていないのかが曖昧になります。一方、授業中の演習だと調べられないので、自分がどこがわからないのかが明確になります。

グノはどのクラスでも、授業開始と同時に教室の空気が引き締まるのが心地良かったです。授業が始まると同時に全力で英文に向き合える感覚は楽しかったです。演習したものの一部はすぐに添削してもらえ、演習が終わるとすぐに解説が始まるので学習効果も上がりました。

佐藤(気)：僕も、そもそも予習して授業を聞くというスタイルが嫌いでした。一人で予習していてもなかなか真剣にはなれません。一方、授業内演習があってその直後に先生の解説を聞くというグノのスタイルは大



佐藤 光さん (文Ⅰ・海城)

好きでした。毎週授業を受けた後に復習して、その次の週の演習や要約で良い結果を目指すというサイクルが、モチベーションを保つのに最適だったと思います。

佐藤(光)：授業中に当てられるのもグノの特徴です。そのお陰で、長時間の授業でも、ずっと緊張感を持って受けられました。

松本：指名に加えて授業中に添削してもらえたので、先生の目が生徒一人ひとりに行き届いていることを実感できました。先生が生徒一人ひとりつながっているのがグノの英語です。

副島：授業中に添削していただいて、コメント付きで答案が返ってくるので、先生と対話している感覚があった楽しかったです。

網脇：毎回の添削も含めて、先生が私たち一人ひとりのことをよく把握されていたので、解説にも無駄がありませんでした。解説のスピードも速かったので、いつも頭がフル回転する気持ち良さを感じていました。

山本：クラス分けテストが年に3回くらいあったのも良かったです。勉強の成果が測れる機会があると、それが毎回の授業の復習へのモチベーションになります。

それにしても、グノのクラス分けテストは45分という短時間で問題数も多かったので大変でした(笑)。毎回、センター試験並みの緊張感がありました。



副島 紘介さん (文Ⅲ・海城)

金子：教材の充実もグノの特長です。授業には先生がいつも新鮮な英文を用意してくださるので、毎回どんな教材と出会うのが楽しみでした。復習用の教材のGSL*も充実しており、毎週新しいものをサイトからダウンロードできるようになっていました。その教材はネイティブスピーカーにとってナチュラルなスピードなので、とにかく速いんです。僕は最初、GSLを聞いても何を言っているかわかりませんでした。でも、耳が慣れてくると聞き取れるようになって、英語の力も伸びました。

佐藤(気)：僕も復習でGSLを活用していました。耳を慣らすのには本当に良い教材でした。それから、音読もグノの英語の特長です。授業を受けた後は英文の深いところまで意味がわかっているので、筆者の伝えたいところや英文の構造を意識しながら音読しました。音読を続けていたら、初見の英文でも大事なところを見抜けるようになりました。音読はグノのすごさの要だと思います。

副島：他塾でも音読は推奨されますが、ただ生徒の自主性にまかされているだけだと思います。グノだと、音読のための教材がそろっていて、方法論も確立されています。

音読の中心になる教材は要約の英文です。適度に難しくても深みもある英文ですが、僕たちの答案を一枚一枚先生が添削してくださって、直後

に解説をしてくださいます。その過程を経て、100%理解できている状態で授業後に音読をします。その英文の音声版がGSLですが、ネイティブの発音、イントネーション、呼吸の取り方も参考になりました。

音読の効果は絶大でした。僕は「音読の効果を高めたい」と思って、100%まで理解できていない英文の場合は、必ず先生に質問するようにしていました。100%理解できていると音読が活き活きとしたものになって、筆者の主張や論理の展開を意識できるようになりましたし、英文法や単語の用法など細かなことも頭に残りやすくなりました。

松本：グノの音読は、授業で理解した英文を何度も読み込むところに特徴があります。筆者の意図を理解した後だと、プレゼンのように活き活きと読むことができます。授業で習ったことを言葉に出しながら再検証して、記憶に定着させて行う音読はとても有効です。しかも、毎回の英文は読むのにちょうど良い長さなので、無理なく続けられました。

佐藤(光)：僕も、英文を100%理解しながら音読するようにしていました。毎日音読していましたが、かける時間は30分程度です。それでも、授業内容の理解が深まりましたし、英語力も格段に上がりました。

山本：他塾では、音読は副次的な方法としてしか紹介されていません。グノでは音読がメインの復習方法として推奨されています。グノを信じて音読を継続しているうちに自然に英語力がつきます。本当に魔法のように力がついていきます。僕の場合、東大のリスニング対策をし始めたのは最後の最後でしたが、それでも高2から音読していたので、すぐに効果が表れました。音読で得たものは英作文にも活かせました。

網脇：確かに音読はリスニング力も上げます。直前期は、毎日1時間く

らい音読をしていたので、本番でもリスニングは大丈夫でした。

副島：グノの英語といえば、英単語の覚え方も特徴的です。単語の語源に立ち返って分解して覚えるという方法なので、1つの単語を軸に関連する他の単語も覚えられて一石二鳥どころか、時にはもっとすごい効果もありました。語源を踏まえ、実際の英文の中での使われ方も踏まえて単語を捉えていくというステップを踏むことで、楽しみながら語彙を増やしていけました。市販の単語帳は結局1回も使いませんでした。周りの人たちが単語帳を使っているのを見て少しだけ不安に感じたこともありましたが、グノを信じていたので、グノのやり方を最後まで貫きました。

佐藤(気)：僕もグノのやり方で楽しく成績が上がっていたので、一生懸命、単語帳を覚えている人たちを見て、「どうして単語帳をやっているのかな？」と逆に疑問でした。グノのやり方で伸びるという確信がありましたし、単語帳を覚える時間があるなら英文を読んだ方がいいと思っていました。

英語が伸びた時期

網脇：グノには周りに優秀な人がたくさんいるので、自分の英語力が伸



網脇 奈保さん (文Ⅲ・桜蔭)

* GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。



佐藤 気さん (文Ⅱ・海城)

びているとはあまり実感していませんでした。ただ、要約で先生に「優秀」と書いていただいたことがあって、そういう時はとてもうれしかったのを覚えています。要約は総合力がないと高得点はとれないと普段から先生に言われていたからです。英文の内容をしっかりと読めないで筆者の主張は読み取れませんし、知識や教養が自分に備わっていないと表面的な読み方に終わってしまいます。読み取れたことを表現できなければ答案としてまとめることができません。毎回やっていた要約演習のお陰で、知らず知らずのうちに力がついていたのかもしれません。

金子：僕の場合も、自分の英語の力が伸びた時期はと問われても「いつなんだろう？」という疑問しか湧きません(笑)。模試でも毎回解き終わりませんでしたし……。でも、グノの勉強はコツコツやり続けていて、毎日英語に触れるようにしていました。そうしたら、受験本番では全部解き終わったんです。この時、読むスピードが上がっていたことを初めて実感しました。

松本：僕はもともと英語が全然でなくて、苦手意識もありました。グノの入室テストでも1度落ちてしまったくらいです。落ちた時は「こんなことはあるはずがない」と思いましたが、冷静に考えて自分の英語

力の低さを自覚しました。「他塾ではなくグノの授業を受けたい」という思いもあったので、入室テストに再チャレンジして、2回目で何とか入塾できました。今振り返ってみれば、それまでは、英文を読む機会があまりにも少なかったのです。グノに入って、面白い英文に大量に触れることができたし、復習のやり方も明確にわかりましたから、どんどん英語を読めるようになりました。

山本：僕の場合、高2の最後の時期に文法を復習して伸びました。それまでは関係詞なども適当に考えていて、英文の構造を見抜けないこともあったし、時制の感覚も適当だったんです。でも、和文英訳と英文和訳を交互に細かなことまで意識してやる練習をしているうちに、英語のセンスが磨かれたようで、段々と英語の伸びを実感できるまでになりました。

佐藤(気)：僕は、小学校低学年から英会話教室に通っていて、人より早く英語に触れていたのも、英語が好きで得意だとも思っていました。でも、中3になってグノの冬期講習を受けた時、「自分はまだまだだ」と自覚させられたんです。周りのレベルも教材のレベルも高かったからです。そこから、「音読するように」という先生のアドバイスに従って音読に取り組むようになって、すぐにグッと伸びました。その後は停滞期もありましたが、高3の夏休みが終わったあたりから「英語を本気でがんばろう」と意識を変えたら、秋にかけてまた大きく伸びました。

佐藤(光)：僕も、英語力が伸びた時期が2回あります。1回目は、グノに入って敗北を味わった時ですね(笑)。やはり教材のレベルと周りのレベルに圧倒されました。この時、「基礎から学ばないといけない」と思って単語帳を使って単語を覚えたら、文章がわかるようになって伸びました。でも、高3になって要約が



山本 新さん (文Ⅰ・麻布)

始まると、点数が毎回低くて伸び悩みました。その時期から音読を熱心にやるようになったら段々点数も上がってきて、英文もスラスラ読めるようになりました。これが2回目の伸びでした。この時はもう単語帳を使うのをやめていた時期でしたが、むしろ使わなかったからうまく英語力を伸ばせたような気がします。

副島：僕も2段階で伸びました。高1で入室テストを受けて入ったのは基礎クラスでした。「上には上がいる」と思い知らされました。授業で教わった文法をがんばって理解して身につけていき、そこからクラスが上がっていきました。次に伸びを実感したのは、高3の時に「英文を100%理解して音読しよう」と意識が変わってからです。以前より速く英文を読めるようになっただけでなく、内容も深く理解できるようになりました。

グノーブルの数学

佐藤(光)：僕は高2までは別の塾で数学を受講していましたが、新高3の冬期講習からグノに移りました。友人が「グノは数学もすごい」と絶賛していたからです。その時期、僕は部活がいち段落して「本格的に受験勉強を始めよう」と思っていたこともあり、一番不安だった数学に時間をかけるつもりでグノを選びました。

友人が「授業についていくのは最



金子 侑太郎さん (文Ⅱ・海城)

初はきついがけれど、正しい方法で数学の成績を伸ばせる」と言っていた通り、授業の効果は抜群でした。前期は、体系的な学習をして、本質部分をながめるインストールの期間で、後期は、インストールしたことを実践で使いこなす期間でした。授業の復習をしっかりやっていたら、夏休み頃に「伸びてきた」という実感がありました。後期のテスト演習は難しく、予習と復習をこなすのも大変でした。でも、グノを信じてついていったら、入試本番ではかなり良い結果を得られました。

網脇：中3から高1にかけては、数学を一から教えていただけて、とにかく授業がとても楽しかったのを覚えています。どんどん問題を解きながら計算力もついていきました。

高2からは、ただ楽しくやってきた数学を、自分で捉え直していくという授業になりました。数学を俯瞰して行動原理を自覚化していくという、グノの数学独自の取り組みなのですが、この作業が最初は大変でした。高2の間は先生が思う100%には到達できませんでした。でも、高3では、高2で一度習っていたこともあって、方針がわかった状態で授業を受けられたので少し楽になりました。とにかく「できるようになろう」「先生が求めるものに近づこう」とがんばっていたら、模試の成績が上がり、「このままグノを信じてついていけば大丈夫」だと思いました。

佐藤(光)：グノの数学の特徴としてはセルフチェックシートが挙げら

れます。テスト演習で解けなかった問題の敗因を分析して書くので、「次に同じような問題が出たらこうしよう」と自分の頭で考えるきっかけになります。学んだことについて、文章化することでさらに理解を深められたのも良かったです。先生が一人ひとりのシートを見てコメントをくださるのですが、いつも参考になることばかりでした。

網脇：セルフチェックシートを毎週提出するので、私が何を苦手としてどういう思考に陥りがちなかを先生も把握してくださいます。だから、質問に行くと、「確かに網脇さんの考え方どころなるね」と的確なアドバイスをしてくださいます。自分で後で見直す時にも自分の傾向を振り返ることができたので、セルフチェックシートはとても役立ちました。

グノーブルの国語

網脇：私は古文と、東大国語の現代文も受講しました。古文常識や古文単語を雑談を交えながら解説してくださったことで、知識を効果的に増やせました。それから、毎週の授業でコンスタントに古文を読み続けられたのも良かったです。お陰で、品詞分解を考えなくても現代文を読むようにスラスラ読めるようになりました。

現代文の授業でまず良かったのは、先生が、必ず全体を読んでから解説をされたので、私も全体の構成を考えながら読むくせがついたことです。解答例が自分でも書けるかもしれな



佐藤 気さん (文Ⅱ・海城)



佐藤 光さん (文Ⅰ・海城)

いと思えるようなものだったのもとても参考になりました。少人数クラス時には、先生がうまくアシストしてくださって、全員が自力で正しく考えて答えを導き出せるように待ってくださったので、とても積極的な姿勢になれました。

それから、直前期の添削がとても丁寧で感動していました。

山本：僕も東大国語をとっていましたが、古文漢文を中心に時々現代文を受講しました。授業は基本的にはとても楽しいのですが、特に古文漢文では頻繁に当たるので、授業に積極的に参加していないと大変です。他の人たちにとってあたりまえの事柄がわからないと、「ええっ!？」という空気になってしまいます。僕は全般的に古文漢文を舐めているところがあったのですが、グノの授業のお陰で、主体的に文法や単語を勉強するようになりました。

佐藤(光)：学校で受けていた国語の授業とは違って、現代文も古文も、先生がご自身の体験に絡めた面白いたとえ話をしてくださったので、とても理解しやすかったです。自分が問題を解く際にも、「先生が話してくださったような体験がないかな？」と考えながら解く習慣が身について読解力も上がりました。

副島：先生は一見難解に思える内容や、現代生活からは縁遠く思える事柄でも、たくみに自分の話やたとえ話をういて解説してくださったので、授業が本当に面白くて、毎週とても楽しみにしていました。古文にまつ



松本 伊織さん (文Ⅱ・早稲田)

東京大学

【理系】



副島 紘介さん (文Ⅲ・海城)

わる豆知識なども、面白おかしく話してくださるので、理解しやすいし実力アップにもつながりました。

もちろん、単に面白かっただけでなく、「どうしてこういう答えになったのか？」という根拠やプロセスをいつも明快にしてくださるので、「自分でこうやって考えて解いたらいいんだな」ということがわかりました。

佐藤(気)：僕も高1で古文を受講しましたが、身近なたとえ話や経験談で解説してもらえたお陰で古文漢文の世界に入り込めるようになりました。

東大の現代文は、「どういうことか？」とか「なぜ？」とか、シンプルだけれどやや戸惑う問題ばかりです。僕は最初、何を書けばいいのか全くわかりませんでした。でも、グノの授業を受けて、現代文ならば対比や助詞のニュアンスに着目して書くといったプロセスがわかり、自分でも何とか答案を作成できるようになりました。

金子：皆さんの言う通り、グノの国語は、現代文でも古文漢文でもイメージしやすい例やエピソードを盛



綱脇 奈保さん (文Ⅲ・桜蔭)

り込んでくださり、解説がとてもわかりやすかったのが印象的です。それから、直前期には過去問の答案を丁寧に添削していただき、どこを直したらいいかを具体的に明示していただけたので助かりました。

後輩へのアドバイス

綱脇：私は、どんな些細なことでもわからないことは必ず質問に行きました。グノの先生はどなたも素晴らしいので、親切に対応してください。

それから、グノの先生方のおっしゃることをまずは実践してみることが大切です。グノを信じて勉強を続ければ必ず夢は叶えられると思います。グノは、大学受験を最終目標にせず、勉強の楽しさも味わえて、人間としても成長させてくれる塾だと思います。

副島：綱脇さんと同じで、グノの先生方を信じてほしいと思います。グノの英語の授業では、「単語帳は要らない」とか「過去問を何年も解く必要はない」とか、他塾とは方針がかなり違うことを言われます。だから、不安に思うことはあるでしょうが、それでもグノの先生のおっしゃることを信じるのが大切です。文章を100%理解して音読を繰り返すなど、グノのやり方を継続すれば、必ず自分の成長につながります。

佐藤(光)：英語は勉強を継続することが重要なので、毎日少しでも音読などに取り組んでください。教材はグノのものだけで十分です。他の教材に手を出してもいいはいっぱいになるだけです。とにかくグノの教材だけをやり込みましょう。

金子：グノの教材を毎日、音読を中心に復習することは本当に大切です。グノの先生はよく、語学は楽器やスポーツの練習に似ているとおっしゃいますが、その通りで、グノで扱った教材を繰り返し読み込む練習は本当に底力をつけると思います。僕は、



松本 伊織さん (文Ⅱ・早稲田)

夏の模試で判定がよくありませんでした。でも、グノの教材で毎日英語に触れることは怠らずに続けていたら、ちゃんと本番では合格できるだけの点数がとれました。

山本：グノの英語は、どのクラスでも授業の質が高いので、下のクラスにいても気にしないで大丈夫です。もちろん、クラス分けテストで本気を出して上のクラスに上がれば素晴らしいことですから、テストを1つの目標にして勉強するのもいいと思います。

松本：僕は、グノの授業を最後まで楽しみました。楽しみながら勉強することが高3の最後まで走り抜けることができます。だから、後輩の皆さんにも、グノの授業を存分に楽しんでもらいたいです。

佐藤(気)：どこの塾も「本質をつかむ」ということを掲げていますが、実際に本質を教えてくれる塾はなかなかありません。その点、グノは、英語に限らず、数学も国語も本質的なことを教えてください。そんなグノの先生方を信じて最後までがんばってください。



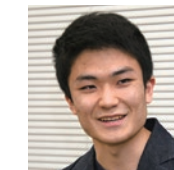
山本 新さん (文Ⅰ・麻布)

【座談会出席者】(五十音順、本文中敬称略)

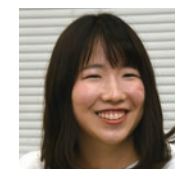
Part 1

おう ぶ せき
王 璞石さん
(理Ⅰ・筑波大学附属駒場)おおさわ ゆういち
大澤 悠一さん
(理Ⅰ・駒場東邦)そえじま ゆう たろう
副島 裕太郎さん
(理Ⅰ・開成)はやし ゆりさん
林 ゆりさん
(理Ⅰ・光塩女子学院)みや せ たまき
宮瀬 環さん
(理Ⅱ・女子学院)わたなべ たくみ
渡部 匠さん
(理Ⅰ・早稲田)

Part 2

ありむら てつぺい
有村 鉄平さん
(理Ⅲ・立教新座)
※その他の医学部合格大学
東京慈恵会医科大、順天堂大、
日本医科大、昭和医大く ぼ たつや
久保 龍哉さん
(理Ⅰ・駒場東邦)ごんだい りょう
権代 凌さん
(理Ⅰ・早稲田)すずき てんま
鈴木 天馬さん
(理Ⅰ・海城)なかの たいき
仲野 太喜さん
(理Ⅰ・駒場東邦)ますざわ かいと
榊澤 海斗さん
(理Ⅰ・開成)

Part 3

だいき こうたろう
大喜 航太郎さん
(理Ⅰ・駒場東邦)たかぎ ゆうき
高木 祐希さん
(理Ⅰ・東京学芸大学附属)たていし とおる
館石 透さん
(理Ⅰ・開成)のとう たくや
納藤 拓哉さん
(理Ⅰ・攻玉社)

東京大学 理系 Part 1

中1からグノに通っていますから、英単語を英語と日本語の対応で覚えたことはありませんし、そのやり方には無理があることは先生から何度も言われてよくわかっています。授業で扱った英文に出てきた単語を文脈で覚えるのが性に合っていました。

林 ゆりさん (理Ⅰ・光塩女子学院)

おう ぶ せき
王 璞石さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

そえじま ゆう たろう
副島 裕太郎さん (理Ⅰ・開成)

みや せ たまき
宮瀬 環さん (理Ⅱ・女子学院)

おおさわ ゆういち
大澤 悠一さん (理Ⅰ・駒場東邦)

はやし ゆりさん (理Ⅰ・光塩女子学院)

わたなべ たくみ
渡部 匠さん (理Ⅰ・早稲田)

●PDFフルバージョンでは、「東大を志望した動機」
もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



入塾のきっかけ

林: 私は中1の夏に入塾しました。母が探してくれました。他塾も検討しましたが、実際に夏期講習に出てみて決めました。先生がすぐに名前を覚えてくださいましたし、何より、先生の熱心さや、発散されるエネルギーが他塾とは比べものになりませんでした。きちんと英文法を教えてもらえるのも良かったです。

宮瀬: 私の母もグノーブルのことを知っていました。英語に強い塾と思っていたみたいです。私がグノに通っている友達から話を聞いて、母に話してみたら、「春期講習に行ってみればいいんじゃない？」と勧められ、高2の春期講習に参加しました。それまで思っていた「塾」とは違い、一体感や授業に参加している感があって雰囲気がとても良く、すぐに気に入りました。特に英単語を語源から教えてくれる授業が新鮮で面白く、鮮明に記憶に残っています。

渡部: 僕も高2の春期講習からグノに通い始めましたが、親の勧めも確かにありました。それまで英語の塾に通っていなかったの、受験に備えることを目的にグノに決めました。

そもそも他塾を考えていなくて、「通うならグノ」と心に決めていました。「英語といえばグノ」というイメージが強かったからです。



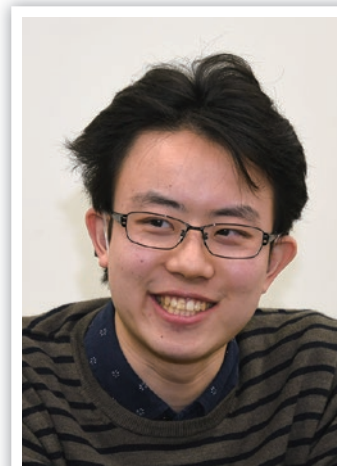
王 璞石さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

王: 僕の場合、姉がグノ生だったのが大きかったです。姉が「グノは英語に強いし、将来に活かせる英語を学べるのがいい」と勧めてくれたので、高1で入塾しました。他塾は検討すらしませんでした。他塾に通っている周りの人たちが大変そうなのを見て、「グノは違うんだ」と思い、

グノがますます好きになりました。

大澤: 僕は高1の夏期講習からグノのお世話になっています。高1の初めに、「学校の授業だけで大丈夫なのか？」と不安になって、いろいろな塾に体験に行った上で、自分でグノに決めました。他塾の英語は、どこかで見たような長文や問題ばかりを扱い、しかも解説が単調でした。一方、グノの授業は最初に演習と添削があつて単調さがなく、扱われる英文にも多様性があつて、メリハリのあつて勉強できるのが魅力でした。

副島: 高2の初めにグノに入塾しました。高1までは塾に通ってなくて、高2になったら「塾に通わないとマズイ」と思っていました。友達の話聞いて、いろんな塾の講習や体験授業を受けてみましたが、その中でグノは、授業の雰囲気はずば抜けて良かったです。他塾の授業は「英語の勉強は面白くないけれど、受験に必要なだからやりなさい」という雰囲気が漂っていました。でも、グノの授業は受験以前に「英語は面白い！」というスタンスの授業で、先生も活き活きしていました。開成でもグノで英語の力を伸ばしていた人が多く、皆グノのファンで、「楽し



大澤 悠一さん (理Ⅰ・駒場東邦)

くて力がつく」と評判が良かったんです。それも入塾の決め手になりました。

グノーブルの英語

王: グノーブルの英語は単語の覚え方に特徴があります。単語帳の暗記はありません。語源の解説があつて感覚的に単語を覚えられました。暗記という感じではなく、頭の中に単語がずっと入ってくる楽しさがあります。授業中に扱う英文に重要単語は何回も出てくるので、文脈で理解できて、記憶に残りやすくなります。

大澤: 確かに授業で扱った英文に出てきた単語だと覚えやすいです。使われている文脈を踏まえて、語源からの解説を聞いたり、先生が単語のイメージをジェスチャーで表現したりするのを見ていて、ストンと腹に落ちる感覚です。先生は「こういうのもあるよ」と言って関連語や派生語をいくつも書き出してくださるので、「暗記しよう」と思わなくても、自然と語彙が増えていきました。

渡部: グノだと、単語に関しては暗記という感覚が全くありませんでした。英文に出てきた単語を定着させていくというスタイルで十分でした。

たまにノートを見直すと、新しい単語を先生が書いてくださったのが思い出されて、特別に「覚えよう」と意識しなくても文章の前後と一緒に記憶が蘇ってくるほどでした。

副島: 新しい単語を覚えて語彙を増やしていくことは、外国語の学習には必須です。その場合、単語帳を暗記することに力を注ぐ人が多いと思いますが、暗記できたと思っても、それ以降も同じ単語に頻繁に出会わなければ、読解にも作文にも使えません。だから、単語帳を暗記する作業は結局無駄だと思います。グノの場合、英文に出てくる語彙を語源から解説してもらえるので印象深くなるし、その英文を定期的に音読することで多くの単語が自然と頭の中にストックされていきます。こんなふうに効率的で効果上がる語彙の増やし方も、グノならではのようです。学校でも周りの人は単語帳で必死に勉強していましたが、僕はグノの授業と復習だけで高2から高3にかけて英語力が一気に伸びたので、単語帳を使わなくても全く不安はありませんでした。

宮瀬: 私は暗記から始める勉強は好きにはなれませんが、そもそも効果が薄いと思っています。グノだと、単語も語源から教えてもらえます。そうすると文化的な背景やネイティブの考え方も見えてくることもあつて、それだけでも面白いなと思えます。グノの復習は授業で扱った英文を何度も音読することが中心ですから、そうして何回も触れていく中で単語のイメージを定着させていけます。覚えようとしなくても自然と覚えてしまうので本当に効果的でした。

林: 中1からグノに通っていますから、英単語を英語と日本語の対応で覚えたことはありませんし、そのやり方には無理があることは先生から何度も言われてよくわかっています。授業で扱った英文に出てきた単語を文脈で

覚えるのが性に合っていました。

王: 他塾に通う友人を見ると、単語だけでなく文法もガチガチに覚えて、いろいろな記号を書き込みながら英文を読んでいました。それは言語の勉強ではないと思います。僕もグノに入塾した当初は、基礎が足りていなかったの、文法をやりましたが、それ以降は英語を言語として読むような読み方に切り替えました。

高2高3になると他教科は東大受験対策が中心で、「時間配分はしっかりしろ」とか「回答欄は縦に埋めろ」とか、そういう話ばかりになって面白くありませんでした。でも、グノで受けていた英語だけは、受験科目としてではなく言語として最後まで勉強できました。英語は将来も必ず使いますから、海外でも通用するスキルを身につけたいと思って取り組んでいましたし、そのやり方で受験も成功しました。

大澤: 難しい構文の英文を「主語はここにある」とか「これは倒置だ」などと分析していくやり方だと、結局、いつまでも日本語を介して英語を解釈することになります。一方、グノは、語順通りに一発で解釈できるような読み方を教えてくださったので、ネイティブに近い読み方ができるよ



副島 裕太郎さん (理Ⅰ・開成)



林 ゆりさん (理Ⅰ・光塩女子学院)

うになりました。音読を繰り返していくうちに自然と読み方が身につくのも特徴的です。グノのやり方だと英文を速く解釈できるようになるので、点数もついてきます。東大受験本番では、数学や物理が難しかったのですが、英語で救われました。

渡部：英語をネイティブ感覚で読んでいけるようになったので、実際に読む時の負担が軽くなって、これからのことを考えても本当に良かったと思います。

授業で扱う英文も、受験の過去問ではなく、ニュースの一部など、実際に使われている英語を取り出してきたものなので、受験に限定されない実践的な英語を学べました。大学院に進んだら留学をしたいのですが、そこでも役立つような英文が多かったですね。教材を残しておいて、これからも使いたいと思っています。

副島：グノは、教材の英文自体やその解説が存分に楽しめる点でも独特でした。よくある英語の授業では、英文そのものの内容が薄かったり、解説でも構文解析をして訳すだけだったり、問題文を解き捨てていくイメージです。

一方グノでは、僕たちのレベルに合った読みごたえのある面白い英文

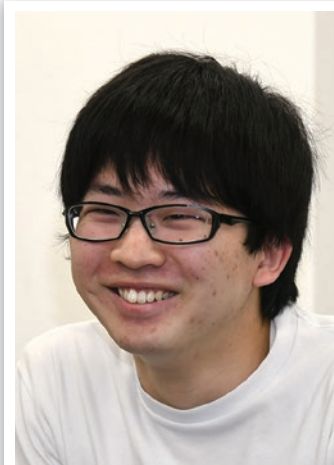
が用意されて、解説はその英文の背景にまで及びます。復習の中心は、そういった英文の音読です。興味深い英文なので楽しく復習に取り組めるし、深く理解している英文を何度も音読していると、英語力も上がり、考えの幅も広がります。自分が何か考えごとをしている時に、ふとグノで読んだ英文のフレーズや内容が思い出されて「思考が豊かになった」と感じたことが何度もありました。

宮瀬：私にとっても英語的な読み方や考え方を習得できたのが大きいです。私たち日本人は、小さい頃から感覚で日本語を身につけてきて、今では十分に使いこなせます。グノだと、英語もそういうふうに感覚で身につけていけるんです。どの言語にもその言葉でしか言えないイメージがあって、先生方はそれを黒板に描いたり身ぶりなどで一生懸命伝えてくださいます。

それから、グノで教えていただいたのは、受験問題の解き方ではなくて、道具としての英語の使い方でした。それに、教材で扱った英文の中には、私たちがこれから学んでいくのに参考にできるヒントや知恵がたくさん詰まっていた。教わったことしかできない勉強ではなく、将



宮瀬 環さん (理Ⅱ・女子学院)



渡部 匠さん (理Ⅰ・早稲田)

来に応用が利く勉強ができたのもグノの良いところです。

林：グノは、本物の生きた英語を学べる塾です。他塾の講習では、教材が配られてそれを予習して授業に参加します。英文をプロジェクターで映す先生や、英文をスラッシュで区切って後ろから訳す先生ばかりでした。グノでは英文を語順のまま読むので、読むスピードが他塾の人たちに比べて圧倒的に速くなって、テストの点数も自然と上がりました。教材も英字新聞や科学論文など様々な出典から作られていて、そういう文章が私は大好きでした。将来研究したい分野の英文が出てくるのがうれしくて、楽しく英語を学べました。

英語が伸びた時期

王：高2まであまり音読をやっていませんでしたが、高3から本格的にやり始め、この時期に英語の伸びが一番実感しました。「プレゼンするみたいに、内容を英語のまま誰かに伝えるつもりで毎日音読しよう」と先生から言われて、その通りに音読を続けたら、初見の英文でも、内容がすんなり頭に入ってくるようになりました。読むスピードもびっくり

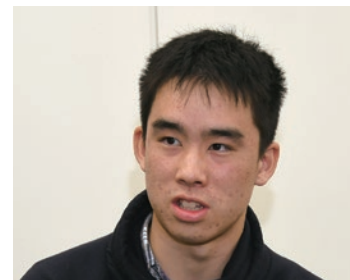
するくらい速くなりました。英文がスラスラ読める自信があったので、入試本番にも落ち着いて臨めましたし、まさに、受験を超えた英語力を授けていただいたと思っています。

副島：僕も本格的に音読を始めたのは高3からで、夏頃からは毎日10分以上はしていました。1日も欠かさないようにしようと決めて受験当日も音読してから出かけました。

音読は自分がどれくらい理解しているかを確認する手段にもなっていました。内容をちゃんと理解できていない英文はスラスラ読めませんが、理解できるとスラスラ読めるようになります。さらに理解が深まれば、プレゼンするように読めるんです。プレゼンするように読める英文の内容は自分の一部になっていきますから、いい内容の英文は一生懸命練習していました。グノの教材には、週に1つは好きなジャンルの英文があります。それを読んでいる時は純粋に楽しくて、思わず夢中になって読んでいました。

宮瀬：グノの音読を効果的にするには、何より授業が大事です。授業の解説を受けて十分に理解した英文を、体になじませて、染み込ませていくように音読をすると効果が上がります。ですから、退屈な英文ではそもそもやる気にもなれないと思います。

グノでは真剣に音読できる英文が用意されているので、私も本当に集中して音読していました。お陰で、英語を読むスピードも上がり、集中



王 璞石さん (理Ⅰ・筑波大学附属駒場)

するというのがどういうことなのかもわかりました。私の場合、電車での移動中なども利用してGSL*を聞いていましたが、周りに人がいない時は口を動かしたり声に出したりもしていました。

GSLを使って音読する時は、耳から入ってくる情報も目から入ってくる情報も全部英語で、スピードが速いので余分なことに頭を使う余裕がありません。自然に英文に入り込んで集中していましたが、そういう時は英語脳に切り替わっているのだと思います。

学校で以前、音読を勧められた時は、方法も細かく指示されなくて、CDのスピードが遅かったこともあり、ゆっくりのペースでただ読んでいただけでした。頭の中で日本語に訳していましたし、英語のリズムはほとんど意識すらしていなくて、あまり効果はなかったと思います。

グノのGSLはネイティブの人にとって自然なスピードでした。つまり、日本人にはめちゃくちゃ速いスピードでした(笑)。日本語変換なんてできないスピードだったので、英語のまま理解する習慣が身につきました。

林：私は、高3の時に、毎日30分は音読していました。喉が弱くて音読していると喉が痛くなるので、湿度の高いお風呂で音読するのが習慣になっていました。

宮瀬さんの言う通り、GSLはとても速くて、それに合わせて音読すると、日本語に訳さず英語のまま理解せざるを得ません。関係代名詞が出てきたからといって返り読みして解釈するなんて絶対にできません。それに慣れていくと、読むスピードはびっくりするくらい上がります。

私は英語が得意だったわけではないし、高2高3でも「英語ができる」という意識はありませんでした。でも、模試では英語が一番の得点源に

なっていました。グノを信じてきちんと勉強していたのが良かったのだと思います。

渡部：僕の場合、スタートラインが低くて最初は基礎クラスだったのに、グノに通っているうちに成績がみるみる上がり、グノのクラスもどんどん上がって、それが勉強の励みにも自信にもなりました。



大澤 悠一さん (理Ⅰ・駒場東邦)

大澤：僕はむしろ、グノに入塾する前は英語に苦手意識があったくらいです。でも、最終的には「数学が一番得意で次が英語」というところまで英語が伸びました。入試本番では数学でつまづきましたが、英語でフォローできたのが良かったです。

宮瀬：私は「英語が得意だ」と思って入塾しましたが、グノの英語は難しくて驚きました。一般的な高3の授業で扱うレベルと変わらないレベルの英文を高2の最初から扱っていたと思います。でも、高3の半ばには、英語は受験科目というよりも楽しみに変わっていて、その頃には模試の英語は簡単だと思えるようになっていました。

副島：確かにグノはレベルが高いです。教材のレベルが高いだけでなく、単語を語源から覚えるなど、他塾や学校の英語の勉強とは違う新鮮さがあって、得意不得意に関係なく英語に取り組めました。英語は一度伸びると点数がぶれにくいので、自信を持って本番に臨むための原動力になりました。

* GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。



副島 裕太郎さん (理Ⅰ・開成)

グノーブルの先生

林：グノの先生方は身近な存在でした。授業中も先生と生徒との距離が近くて、私は前の方に座っていたので、特に近さを感じていました。先生方の生徒一人ひとりに対する熱心さは、初回で生徒全員の名前を覚えてくださることや、東大や医学部の話をする時に志望の人の方を見ながら話されたりすることからも伝わってきました。そういう授業は頭に入ってきやすかったですし、授業で聞いたことを復習する時も、授業を思い出しやすいくて楽でした。

大澤：確かに、先生方は生徒と近いところにいらっしゃってとても親密です。名前を覚えてくださったり、授業以外でも話してくださったりするのうれしかったのを覚えています。何よりも、生徒一人ひとりのことを考えてくださっているのが印象的でした。添削のコメントも丁寧で本当にためになりました。

渡部：先生方が生徒一人ひとりのことをきちんと見ていてくださっているのを感じていました。グノは集団授業ですが、例えば授業中に誰か一人がトイレに抜けたりすると、解説がいったん中断されて、その間は先生が別の楽しい話をしてくれたりしました。それが新鮮で、最初は驚きでした。先生方は、「生徒全員に授業を伝えよう」と考えていらっしゃるんです。

授業後に英語の勉強のやり方を質問に行った時、先生はその日の僕

の様子を踏まえて、いろいろアドバイスしてくださいました。まさかちゃんと見てくださっていたとは思っていなかったで、びっくりすると同時に、先生方の生徒に対する思いの強さを感じました。

宮瀬：先生が生徒にまっすぐ向き合ってくださいるので、生徒の私たちも「がんばろう！」と思えます。先生は生徒思いだけでなく、英語への理解の深さや周辺知識の深さもものすごく、それを毎回楽しそうに教えてくださいます。私は授業のたびに感動していました。「自分も先生に追いつきたい！先生のようにになりたい！」という思いも自然に湧いてきました。

副島：グノの授業を受けていて感じた先生方の印象は、「謙虚」ということです。教わる側と教える側という立場的なことを考えれば、「合格したければ、つべこべ言わずにやれ」という上から目線の先生がいても不思議はないのですが、グノにはそうした圧を感じさせる先生が一人もいません。常に「生徒第一」で親身に接してくださったことに感謝しています。

そうした姿勢は先生だけに限ったことではなく、受付の方々も同じです。塾全体で僕ら生徒をサポートしてくれるというところが、グノの本質的な良さだったと思います。

王：僕が抱いていた一番の印象は「元気」です。高2の時の先生も、高3で英語の読解担当だった先生も身ぶり手ぶりがすごいし、動き回るし、とにかく熱意が伝わってきました。先生から「伝えよう！」というオーラがもりもり出ていて、そういう感情を伴った授業のお陰で、集中しやすいし記憶にも残りやすかったです。

高3の英作文の先生は静かなお人柄でしたが、「伝えよう！」というオーラは他の先生方と同じでした。先生が淡々と喋るだけの授業だと、頭に

入らないし眠くなりますが、グノでそういうことはあり得ませんでした。

とにかく、グノの先生方は、一般的な塾講師のイメージとは大きく外れていました。

副島：先生が「これは面白い」と思って見つけてきた英文を僕たちも読むので、知的好奇心が刺激されましたし、解説にも一層熱がこもって、それを聞いているだけでも楽しかったのだと思います。

世の中には砂浜の砂粒の数ぐらい英語の情報はあふれていますから、その中からちょっとした宝物を見つけるみたいに面白い英文を見つけてくる先生たちはすごいと思っていました。だからこそ、「自分も同じように、いや、もっと面白いものに出会えるようになりたい」という思いになりました。

渡部：副島君の言いたいことはとてもよくわかる気がします。僕にとって先生方は、良きライバルみたいな存在だったとも思います。「先生たちがそこまでがんばってくださるなら、自分も」と思って、やる気がなくなった時の励みにしていました。先生への競争意識みたいなものが勉強のモチベーションになったのは確かです。

宮瀬：グノの先生方は、英語を教えてくださいただけだけでなく、人間的な成長という面も促してくださったと思っています。先生方には、信頼できる人がついていてくださっているという安心感も抱いていましたが、



林 ゆりさん (理Ⅰ・光塩女子学院)

一人の人間として見ていただけているうれしさも感じていたので、それが励みになって、自分のことは自分で引き受けていこうという気持ちも持てました。

グノーブルの環境

副島：グノの先生は普段から僕たちと同じ目線で接してくださるのですが、教室がちっと狭いので、先生たちとの親密さをより感じやすい空間でした。

大澤：直前講習の時ですが、その日の英語の授業が読解と作文のどちらを申し込んだかわからなくなってしまった時に、先生が受付までさっと走って確認してくださったことがありました。



宮瀬 環さん (理Ⅱ・女子学院)

先生だけでなく受付にもお堅い感じはなくて、振替の対応も親切で迅速でした。気軽に振り替えられたのでずいぶん助かりました。グノ全体に生徒思いの雰囲気がありました。

林：受付の方が生徒の要望にすぐ対応してくださるのは本当に印象的でした。他塾にはない優しさがありました。

王：スタッフの方は本当に優しくてスピーディーですよ。この座談会のインタビュー項目の紙も僕がなくしてしまってメールで相談したら、1時間も経たずに返信が来たので助かりました。細かく丁寧に見て対応していただきました。

渡部：教室がわからなくなって探していた時も、受付の方が「何かお困りですか？」と声をかけてくださいました。優しい口調なのでこちらから話もしやすく、気持ちが焦っていた時は本当にありがたかったです。受験期は他のことに気を配れなくなるので、そういうところで何のストレスもなかったのは大きかったと思います。

宮瀬：数学を受講していない生徒にも直前期に使う数Ⅲの問題集を配ってもらえましたが、それがとても良い問題集で役立ちました。生徒へのこのような配慮があるからこそ、グノーブルには安心して通うことができました。先生方も受付の方もとても優しく接してくださったので、「休まずに通いたい」と思える塾でした。

後輩へのアドバイス

王：グノは、英語の指導を深く研究している塾だと思います。先生のおっしゃることをきちんと聞いて、やるべきことをやりさえすれば、伸びるのは確実です。グノの先生方のアドバイスを信頼して勉強すればいいと思います。

渡部：グノは他塾とちょっと違う教え方で独特なので不安を感じることもあるかもしれません。そういう時は、気軽に先生に話を聞きに行けばいいと思います。グノのやり方にはちゃんと信頼できる裏付けがあります。

僕自身は、グノの授業がすべて終わった受験直前期の自宅学習中に、改めてグノの良さに気づいたり、精神的に助けてもらっていたことを実感したりしました。グノを信じてついていけばきっと大丈夫です。

宮瀬：先生方を信頼して復習や音読を大切にしながら勉強して英語を伸ばせました。グノを信じて本当に良かったです。それから、現在の自分よりも少しレベルの高い勉強を続け



渡部 匠さん (理Ⅰ・早稲田)

るといいです。グノは教材のレベルも、周りのレベルも高かったので、それに追いつこうと必死にがんばった結果、東大にも合格できたんだと思います。

大澤：不得意でも得意でもない科目を伸ばす方が得意科目を伸ばすよりも楽です。だから、僕みたいに、英語が極端に苦手でもないけれど得意でもないという人は、グノで学べば、英語を大きく伸ばせると思います。授業を受けて、先生方のおっしゃるやり方で音読の復習をすれば英語は伸びます。大学受験だけでなく将来のことまで考えると絶対にグノがお勧めです。

副島：自分が勉強しやすい環境を作っていくことが大切です。僕は、家で勉強したりカフェで勉強したりと、場所を変えながら勉強していました。受験勉強の最中にストレスを感じたり嫌気が差したりしたら、場所を変えるのも有効です。もちろんグノは最高の環境なので、グノで過ごす時間をとにかく大事にしてください。

林：勉強を楽しむのが一番です。受験のために嫌々勉強するのではなく、自分が楽しいから勉強するという気持ちがあると苦痛になりません。「1年後に大学でどんな勉強をしたいか？」を考えて目標を立て、受験をゴールにしないでその先について考えてほしいと思います。受験は通過点なので、楽しみながら最後まで受験勉強に打ち込んでください。

東京大学 理系 Part 2

中1のスタートダッシュ講座を受講して、そのまま入塾しました。
英数を早めに勉強して基礎を固めておいた方がいいと聞いていたからです。
グノは先生と生徒の距離が近くて、先生とのコミュニケーションがとりやすいです。

鈴木 天馬さん (理Ⅰ・海城)

ありわら てっぺい (理Ⅲ・立教新座) 有村 鉄平さん ※東京慈恵会医科大学、順天堂大、日本医科大学、昭和大学

ごんだい りょう 権代 凌さん (理Ⅰ・早稲田)

すず き てん ま 鈴木 天馬さん (理Ⅰ・海城)

なか の たい き 仲野 太喜さん (理Ⅰ・駒場東邦)

ますざわ かい と 栲澤 海斗さん (理Ⅰ・開成)

※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「東大を志望した動機」、「グノーブルの環境」、「理Ⅲの面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



入塾のきっかけ

権代：高1の1月に英語で入塾しました。先輩から勧められたのもありますが、他塾の情報誌でグノの名前がよく挙がっていたので気になった感じです。「良い塾なのかな？」と思って初回授業に参加したら実際に良い授業だったので、そのまま入塾を決めました。前コマと後コマの授業があって、振替ができるのも他塾にはない利点でした。

仲野：友達のお母さんから「英語ですごい塾がある」という話を聞いて、中3の春に受講してみたらその通りすごい塾でした。他塾と比較すらしませんでした。

久保：僕も、仲野君と同じ人から話を聞いて、テニス部の先輩がたくさん通っていることもあり、英語で入りました。「先生と生徒のやりとりが多い！」というのが第一印象でしたが、そういう授業が気に入ったし、振替などが充実していて部活と両立できるので、グノで最後までがんばることにしました。

栲澤：グノを知ったきっかけは広告です。『大学への数学』でよく目にしていました。それに校内での評判も

非常に良かったんです。高2の9月に、それまでお世話になっていた家庭教師を辞めて、東京で塾を探しました。いろいろな塾を検討しましたが、僕は集団塾に慣れていないし、自宅が遠くて夜遅い時間帯の受講は厳しいという事情がありました。その点、グノは少人数制ですし、授業開始時間が早くて、抵抗感なく通えそうでした。

鈴木：僕は中1のスタートダッシュ講座*を受講して、そのまま入塾し



有村 鉄平さん (理Ⅲ・立教新座)

ました。英数を早めに勉強して基礎を固めておいた方がいいと聞いていたからです。父がいろいろな塾を検討しましたが、僕は当時そこまで成績が良くなく、自分に合わせて優しく授業をしてくれる塾を希望しました。グノは他塾と違って、先生と生徒の距離が近くて、先生とコミュニケーションがとりやすいです。先生が親身にアドバイスをくださるとモチベーションにもつながるので、そういう点が入塾の決め手になりました。

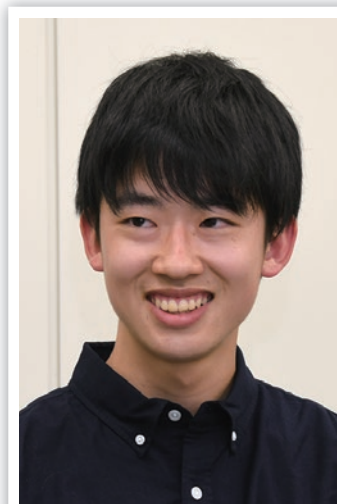
有村：僕も、数学のスタートダッシュ講座から受講しました。グノを知ったきっかけは、幼稚園の時からお付き合いのある先輩のお母さんから、「大学受験を考えると、グノーブルがとてもしっかり」と両親が聞いていたことです。僕は当時、大学受験を考えていませんでしたが、小学校時代から中学受験するわけでもないのに学習塾に通っていました。両親が「必ず役に立つから、勉強はしておきなさい」という方針だったからです。それで両親に勧められるままグノの講座を受講したら、授業がめちゃくちゃ面白かったし、皆が勉強を楽しんでいる雰囲気も気に入って

グノへの入塾を決めました。

しばらく数学で通っていて、勉強が面白くなってきたので、「大学受験をしよう！」という意識が芽生えました。そうすると英語も必要です。僕は小学校で英検の勉強をしていましたが、大学受験の英語とは性質が異なります。だから、大学受験のために英語の授業を受けたくなくて、中2から英語も受講し始めました。中1から通っているグノ生と比べると、スペルを覚えていないなど遅れているところがあったので上のクラスに入れなくて、最初は苦労しました。

グノーブルの英語

久保：いい意味で衝撃的だったのは、単語帳は使わないという方針でした。僕は、受験勉強だからといって、意味のないことをガリガリ覚えるのは嫌いで、ただの丸暗記はしたくありませんでした。でも、グノの授業を受けていれば、英単語を楽しく身につけられました。語源からの解説は話を聞いたり、板書や先生の身ぶり手ぶりをしているだけで面白かったし、文章と関連して単語を覚えられ



久保 龍哉さん (理Ⅰ・駒場東邦)

たり、1つの単語からいろいろな単語を派生させて覚えられたりして、受験まで単語帳を使わなくて済みました。

仲野：授業はいつもいい刺激に満ちていました。授業で扱う英文が面白くて、最近の時事を反映した興味深いものも多かったのも、英語を勉強しながら、様々なことへの知識が増えました。

周りの生徒のレベルもすごく高くて、いつも「自分よりできる人がいる」と感じられて、それも刺激的でした。僕は学校で英語ができる方なんです(笑)。それなのに、グノに来ると毎回自信を打ち砕かれました。

高2高3では授業で扱う英文の質の良さを感じていました。きちんとした根拠がないと答えられない問題が多く、そういう問題に取り組むことで英語力も思考力もアップしました。

有村：グノの授業は常に面白くて、勉強をいつも楽しめました。受験が終わるまで勉強嫌になることは一度もありませんでした。英語の授業も塾によっては1文1文を構造分解して文法の説明をしますが、そういうのは面白くないと思います。グノでは先生が興味を持てる英文を豊富に用意してくださって、解説も英文の深い内容にどんどん入っていくので、毎回たっぷり楽しめました。

僕はグノに入る前から、英検の勉強でたくさんの英文を読んでいて、それが自分には合っていました。グノでもいろいろな研究成果や時事問題、芸術の話や文学などに英語で触られました。理屈をいろいろ知ることよりも、とにかくたくさん読むことが英語の勉強には大切だと思います。そもそも、文法や単語をたくさん覚えるだけの受験英語は嫌いです。グノは受験を意識しなくて良かったので、「英語が嫌い」と思ったことは一度もありませんでした。



権代 凌さん (理Ⅰ・早稲田)

栲澤：事前に教材が配られて、予習を要求するのが一般的な塾のやり方だと思います。予習していかないと授業を受けても意味がないし、かといって部活をやっていると予習するための時間を確保できません。

一方、グノは予習前提ではなく、授業中に演習します。その方が集中できるし、演習した内容が鮮明なうちに解説を受けられるので効果も上がります。その場で添削もしていたので、自分で気づけなかった点には特に注意して解説を聞けます。こういうスタイルは、僕にはぴったりでした。

それから僕は、英文を読むというのはどういうことかをグノの授業で知りました。文法や単語がわかっている、正しく和訳ができていても、その文章を理解できていないことは多々あります。足りない部分に気づかせてくれたのがグノの授業と教材です。先生の解説を受けると、表面的な読み方のペールの下から別のものが現れてくるのがよくありました。グノで扱われる英文は、題材の面白さはもちろんのこと、簡単には解釈できないからこそ面白さが味わえるものが用意されていて、すごい

など感じていました。

僕は受験に特化した勉強をするのが苦手で、そこに目的意識を持てないでいました。でも、グノは受験を前面に押し出していなかったのも、全く抵抗感なく勉強を楽しめました。**権代**：毎週添削があるのは確かに珍しいです。他塾だと、添削がない場合がほとんどです。しかも、以前の課題をやり直したり、和訳してみたものを提出すれば、それも先生は丁寧に添削してくださいました。直前期には過去問も細かく添削してアドバイスをいただきました。先生に質問をするのも、直接話して相談をすることも気軽にできる点もグノの特長でした。

それから、グノといえば音読です。授業で理解した教材の音読を繰り返すことで、英語の語順のまま解釈していく感覚がつかめていくし、その文の中で使われている単語もすんなり頭に入っていきます。本当に市販の単語帳が要らなくなります。

鈴木：僕は高1の頃、段々成績が下がりクラスも落ちていきました。このままではマズイと思って、先生に相談しに行ったら、勧められたのは音読でした。それまでは音読を真面



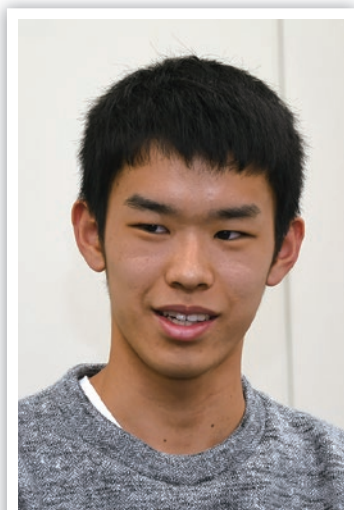
鈴木 天馬さん (理I・海城)

目にやっていなかったんです。その後、GSL*を聞いて音読するようになったら、成績もクラスも上がりました。あの時音読を勧めていただけて本当に良かったです。

その時に思ったのが、単語帳は見ていると眠くなるが、音読は眠くならないということでした。音読の習慣は生活の中にも無理なく組み込めます。寝る前に音読を10回繰り返したり、電車の中でGSLを聞いたり、体を使っていくのはむしろ楽しいんです。黙読だとスラスラ読んでいる気がして読み飛ばしもありますが、音読だと「自分はどこがわかって、どこがわかっていないか？」を認識できることにも気がつきました。例えば、冠詞のaやtheにも音読だと意識できるようになって、英語の感覚が鋭くなるんです。理解できていない語法や文法事項にもすぐに気がつきます。黙読よりも音読の方が圧倒的に文章への理解を深められます。

榎澤：授業で解説された教材を当日や翌日に音読していると、単語や内容も頭に入りやすいし、音読しながら、授業で解説されたことの深い意味がわかってきたりもしました。GSLもあるので発音の練習にもなります。間違った発音で読んだり、自分なりの読み方を定着させる音読はかえってマイナスですが、グノではGSLがセットになっているのでそんな心配はありません。リスニング対策にもなって一石二鳥です。

仲野：僕は音読が楽しいから好きでしたし、積極的に取り組んでいました。駒東では「基本例文集」が高2で配られて、その音読を勧められます。グノで音読の楽しさを知っているので、「基本例文集」の音読までも楽しくなりました。音読さえすれば、「英語を伸ばそう」と意識しなくても必要な英語力は身につくと思います。



仲野 太喜さん (理I・駒場東邦)

鈴木：僕は、高1で音読を始めるまでは、市販の単語帳を使って単語を覚えようとしていました。でも、単語帳では結局成績が伸びず、音読で伸びました。僕は幼少期から声に出して物事を覚えたり理解したりしていました。そんな僕には、音読が合っていたのだと思います。グノのGSLは、学年によって、文の区切れごとにポーズが入っているバージョンや読むスピードを上げるための速いバージョンなどがあって、英語力を伸ばすための音声教材がそろっています。

久保：音読の効果については、僕も実感していました。ひとつ付け加えるとすれば、音読のコツですね。以前先生が「大勢の聴衆の前でスピーチをするように音読しよう」とおっしゃっていたので、僕は風呂でもスピーチをするつもりで音読をしていました。風呂だと声が響くので、マイクがあるような感じになって、大勢の前に立っている自分を想像しながら、テンションを上げて音読していました。

有村：僕の場合、余分な情報がついていた方が覚えたり定着させたりしやすいようなんです。余分な情報と

いうのは、「この英文を書いた筆者の観察眼は鋭い!」という感想や、「あの時本当に間抜けな解答を書いていた」という記憶などです。音読は、授業中に解説を聞いたり自分が考えたりしたことを思い出す作業として役立ちました。

それから、単語帳で味気なく何の関連もない単語をバツと覚えるよりも、授業で出てきた単語だと単語自体に情報がタグ付けされ、頭に入ってきたので、単語を覚えるのにも音読は有効でした。

グノは音読を推奨しますが、皆で読み合わせするわけではありません。先生方も「こうやるといいよ」とはおっしゃいますが、「絶対にこうしなければならない」と押し付けてはきません。だから、自分に合ったスピードと量で音読ができて、それが僕には合っていました。

英語が伸びた時期

権代：僕が伸びたのは受験直前期です。第2回東大模試の英語の点数にショックを受け、それからは、グノで扱ったテキストの内容をすべて自分のものにしてしまおうと必死でがんばりました。音読をきちんとやって内容理解と知識の取り込みに力を入れると同時に、あいまいなところはすべて先生に質問したり添削をお願いしたりしました。

グノの復習に力を注ぎ込んでいたら最後の最後になってようやく、要約のやり方がつかめてきたような気がして、そこから自信が持てるようになりました。過去問も添削してもらいましたが、過去問はそんなに何年分もやらなくても、グノの教材だけやっておけば大丈夫だっただろうと今は思っています。

鈴木：僕は高1の頃は基礎クラスに落ちてしまい本当に「ヤバイ」とい

う気持ちでした。音読を始めて、高1のうちに伸びを実感でき、その後も音読を習慣化できたので、ガクッと下がることは最後までありませんでした。

久保：僕は上位のクラスを維持していましたが、毎週の授業ではボコボコになっていました。要約の点数もひどくて、演習プリントも的外れな記述ばかり書いていました。でも、先生からはいつも、「点数が悪くて落ち込む気持ちはわかるけれど、課題が見つかった良かった、この課題を理解して自分のものにすれば確実に力は上がるから」と言われ続けていたので、頭を切り替えて復習に努めていました。



榎澤 海斗さん (理I・開成)

そんな状態でしたから、「読むスピードが上がってきたな」とか「力がついてきたな」とか感じることはあっても、突然伸びたという気持ちを感じた時期は特にありませんでした。

仲野：僕の場合も、急激に伸びたとか、一気に伸びたという時期は思いあたりませんが、TLP*に選ばれたので、力は確実についていました。す。「合格点をとればよい」と思っ

て英語を勉強していたわけではなくて、受験に関係あるかどうかにかかわらずグノの英語には真剣に取り組んでいました。それが良かったのだと思います。

榎澤：受験を見据えて勉強するとなると、ある程度目安が必要です。「この単語帳をすべて覚えれば受験で大丈夫」というような目安がグノにはなくて、そこがちょっと不安になったこともありましたが、でも、東大受験生に有名な単語帳を後で見てみたら、「こんな単語しか載っていないの?」と拍子抜けしてしまい、自分ができるようになっていたことを実感しました。

グノの授業で、大学受験レベルを超えた語彙力も無理なくついていたのです。知的にレベルの高い英文も抵抗なく読めるようになりました。要約にしても、他塾の人だと、具体例に線を引いて消すなどの作業がメインのようです。一方、グノだと、もっと本質的な視点から問題を俯瞰できるようになります。グノに通っている周りの人も優秀なので、グノの授業を受けていると自分では伸びを実感しにくいかもしれませんが、授業を楽しんで受けて、音読をし続ければ、確実に英語力がついていくのだと思います。

有村：僕の場合も、グノに入ってから客観的な基準で英語力を測る場がなかったので、伸びているのかどうかはずっとわからないままでした。初めて東大同日模試を受けたのは、入試本番の2年前、高校1年生の時でした。この時は「英語が結構できたぞ!」と思ったのですが、結果は78点で理Ⅲを目指すには低すぎる点数でした。「ここから伸びるのかな?このままでいいのかな?」と少し不安になりましたが、高2の1年間は変わらず、ずっとグノに通っていただけでした。そして、入試本番1年前にも東大同日模試を受けたら、

* GSL (Gnoble Sound Laboratory) : 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

* TLP (Trilingual Program) : 「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位1割程度に入った学生に認められています。

90点近くまで点数が上がっていました。受けた時は「できていない」と感じていましたが、点数が良いという客観的事実がすべてを物語っていました。

それから、以前購入して使っていなかった単語帳を開いたら、そこに載っている単語のほとんどが頭に入っていて、このことから英語力の伸びを感じました。いつの間にか力がついていたんです。最終的には、大学受験で英語の点数がアドバンテージとなり、人より英語が得意と思えるまでになっていました。

今年の本番の受験では僕も TLP に選ばれました。そもそも TLP を目標にしていたわけではありませんし、当日も特に何も考えずに受験していました。グノのお陰で、確固たる英語力がついたのだと思います。



有村 鉄平さん (理Ⅲ・立教新座)

グノーブルの数学

久保：高1の時に受講した数学は、数ⅡBを学習するカリキュラムでした。初めて学ぶ人がほとんどでしたが、先生は僕たちの何も知らない状態を大事にしてくださいました。他塾だと、数列や積分などの分野を「こういう公式があります」とただ進めていただけだと思います。一方、

グノでは、新しい概念をクイズ形式で示してってくださいました。僕たちは、自分たちの頭を使いながら、クイズの中で数学の新しい概念に触れ、その概念に慣れていきました。僕は自分の頭を使うのが面白くて大好きなので、毎週「自分が答えたい」と思って受講していました。

有村：高1までの授業では、先生は新しい概念の導入に時間を割いてくださいました。例えば、ワイン樽の体積を求めなければならなかったから積分が生まれたという話は今でもよく覚えています。「数学ではこんなことができるんだ！すごいでしょ？」という先生の思いがひしひしと伝わってきました。僕も「すごい！」という素直な驚きがあって、「受験勉強しない！」というよりも「数学は面白い！」と思って授業を受けていました。

鈴木：高1までの授業は数学に親しんで好きになるための授業だったと思います。僕も、公式を使わないで無理やり解いて、「やってやったぜ！」という満足感を味わうために毎週がんばっていました。

有村：高2からは受験数学への戦略的取り組みにテーマが変わりました。そうは言っても、問題をガリガリやる感じではなかったのが、問題を解き終わった後や解説を聞いた時に「面白い」と思えることが多かったのです。

ただ、板書量がすさまじいあの授業を最初に受けた時はカルチャーショックを受けました。数学の授業なのに日本語が大量なので面喰ったんです。でも先生から、「論理的な思考力を養うには、使う道具のことも、なぜその道具を使うのかも理解している必要があって、そのためのノート作りをする」という明確な提示がありました。先生の話し方には、「今はよくわからないけれど、この人についていこう！」と思わせてくれる

オーラがありました。翌週の授業では、「前回の授業で扱ったことがこうやって活かせる」と僕たちに実感させてくださいました。最初はついていくのがたいへんでしたが、短期的でなくて長期的な視点で練られたカリキュラムだと信じられました。

鈴木：高2の3学期から、毎週難しい問題が10題宿題として出されて、1問1時間くらいかけて解いていました。夏休みはそうした問題がさらに増えて、それらを全部解いてきたので数学に自信がありました。それなのに、後期の演習授業を受けたらなかなか点数をとれませんでした。

宿題はどれだけ時間がかかっても解ければいいのですが、演習は90分で4問を解かなければいけません。僕は1問に60分かかってしまうことが多かったんです。

僕は、そのことをセルフチェックシートに書きました。セルフチェックシートとは、グノの数学で行われている自分の課題や反省点を自分で記入していく用紙のことです。自分の失敗の原因を書かないと、その記憶は一瞬で消えてしまいます。書き残すと同じことを繰り返さなくなります。

セルフチェックシートを書くようになってからは、1問に時間をかけすぎず15分で解き終わらなければ次に進むというやり方に切り替えました。セルフチェックシートは僕の悪いくせを明確にしてくれたのでありがたかったです。

有村：セルフチェックシートは偉大です。できた問題に関しては、「自分はこういうところに気づいたので良かった」と書き残しておくことで、偶然その問題に勝てたのではなく必然的に勝てるようになっていきます。勝因を文字にして保存しておく、「たまたまではなく次もできる」という確認になります。

一方、できなかった問題に関して

は、「どうしてわからないのか？」を書いているうちに怒りがこみあげてきます。怒りが沸騰しそうな状態で授業に臨むので、死ぬ気で解説を聞けました。セルフチェックシートがなかったら、解けない問題と出会っても流れてしまって、せっかくの解説も自分の中に残らなかったと思います。

セルフチェックシートは、自分の課題を印象付け、そこから教訓を得るのに役立ちました。後日リベンジマッチの問題が出てきた時に、以前できなかった問題ができたなら「やった！」となり印象深いものになるし、できれば教訓がさらに深く記憶に残ります。セルフチェックシートは単に自分と向き合うためだけではなく、自分を自分で叱咤激励するものにもなっていました。

グノーブルの国語

有村：高1で1年間古文を、講習で漢文を受講しました。古文は最初、下のクラスに入っていて、少人数の中でずっと教わっていました。古文は日本語とはいえ複雑で、人によってわからないところも違ってきます。僕は行間が読めず、誰がこのセリフを言っているのかとか、誰がこの行動をしているのかといったことがわ



久保 龍哉さん (理Ⅰ・駒場東邦)

からなくなって、物語を追いかけていけませんでしたが、授業が面白いというのは本当でした。それから、講習生の僕でも東大の過去問の添削をしていただけて、先生には本当に感謝しています。

仲野：僕も高1の1年間、古文を受講しました。先生がとにかく面白くて、説明の時も身ぶり手ぶりが激しかったり、ジェスチャーがあつたりして、捉えにくい古文がわかりやすくなりました。高3になって本腰を入れて古文を勉強し始めた時に力を伸ばせたのは、高1の時のグノの古文があったからでした。

鈴木：僕も高1で古文を受講しました。担当の先生は、いろいろな例や身近な話題を出してくださるので、わかりやすくてとても面白かったです。例えば、「にくし」という古文単語が出てきた時に、ちびまる子ちゃんが「にくいね」と言って褒める時の意味と同じだという例が鮮明に記憶に残っています。古文には男女関係のもつれなどの話もありますが、それを現代風に話していただけて、僕でも納得できました。

樹澤：僕は高3で東大国語を受講しました。グノの授業は内容理解に重点を置いていて、文章の内容をしっかり理解してから1問1問解答するので「この文章を読み切ったぞ」という達成感がありました。細かいところまでおろそかにせず、理解してから解くことを繰り返すのは良かったです。過去問の添削をしていただけたのも助かりました。「自分は何ができなかったのか？」を把握しながら勉強できました。

権代：僕は講習でしか国語をとって

いませんでしたが、授業が面白いというのは本当でした。それから、講習生の僕でも東大の過去問の添削をしていただけて、先生には本当に感謝しています。



権代 凌さん (理Ⅰ・早稲田)

グノーブルの先生

久保：僕は、英語は好きでしたが、もうひとつ自信が持てなくて、授業中の難しい質問の答えがわかっても勇気を出して手を挙げられないことがありました。そんな僕の表情に先生はちゃんと気づいて当ててくださったことがあります。とてもうれしかったです。生徒一人ひとりを見てくださってすごいなと思っていました。

仲野：名前をすぐに覚えてもらえて、一人ひとりを見ていてもらえるのはやはり良かったです。しかも、数年前にお世話になった先生が、今でも覚えてくださっていて、たまたまれ違った時に声をかけてくださることもあって、その時は結構感動しました。

グノに来て、「塾はテクニックに頼るものだ」という固定概念が崩れました。先生方は毎回、様々な教材を用意してくださったし、英語以外にも本当に多くの話をしてください



鈴木 天馬さん（理Ⅰ・海城）

ました。先生方のお陰で、受験勉強の枠を超えて様々な知識や考え方に触れることができ、自分が大人になった気がします。

柊澤：英語にしても国語にしても、先生方がすぐに名前を覚えてくださったのは驚きでした。一人ひとりの答案を丁寧に添削して、それぞれの状況も先生方は把握してくださるので、こちらも安心できました。見ていただいているという感覚が受験勉強の励みになったんです。

それから、英語の読解の授業で、文法や単語のレベルではなく、もっと高度な文章読解の力が自分に足りていないことに気づかせてくださったのもグノの先生です。この経験は、将来にとってもすごく大きいと思います。

権代：僕の珍しい苗字は覚えてもらえないことが多いのですが、グノの先生はすぐに覚えてくださいました。ある授業で、僕から話したわけでもないのに、先生の方から、僕が化学グランプリの銅賞をもらったことを祝ってくださったことがあります。どこかで僕の受賞を見つけてくださったのが本当にうれしかったです。その先生は、毎週和訳の添削で厳しいコメントや温かい励ましを書いてくださり、過去問の添削でも有益なアドバイスをくださいました。東大の入試本番では、東大の入口で先生

に会えたのがうれしかったし、そこで力をいただいたことが合格につながったと思っています。

有村：先生たちが一人ひとりを見てくださったことには本当に感謝しています。数Ⅲのテスト演習のセルフチェックシートには、僕の経験値の範疇でしか書けないことに対して、先生の高い経験値からフィードバックしていただけたので、次につながるセルフチェックシートになりました。

「センスがどうこう言う前にきちんとやりなさい」と授業中に強くおっしゃった言葉で、「数学の問題が解けるかどうかは運だ」というそれまでの認識が変わったこともありました。言葉だけでなく、授業中に「こうすればいいんだよ」という具体的な戦略を示してくださって、それを実践するための問題もたくさん提供してくださいました。テスト演習は、できてもできなくても学べるのがたくさんあって楽しくて、最後まで継続して学習できました。

鈴木：僕も数学に特別力を注いでいたので、数学の先生方にはとてもお世話になりました。僕はもともと算数が嫌い、鶴亀算を見るだけで嫌という感じでした。小学校時代の算数は、塾でも「こういうものなんだよ」としか教わらず、いつも「何で？」と思いながら全然納得できないうでした。でも、グノの数学の先生方は、僕の質問に対していつも納得できる答えを返してくださいました。

グノの先生からは、「数学はこんなに面白くて、いろんなものに役立っているんだよ」ということを教わりました。現代社会が数学を基礎として成り立っているという事実を垣間見せていただけたので、受験にこだわることなく、きちんと数学と向き合う姿勢を身につけられました。「数学は楽しい」と思えて、数学に対

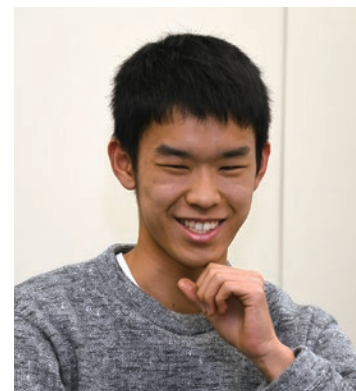
する抵抗が全くなくなりました。

テスト演習を通して、入試科目としての数学の現実も見せてくださいました。他塾と比べても相当レベルが高く、僕は自分ができていないことを身に染みて実感させられました。自分のできなさを自覚したお陰で、入試ではおどりがなくなって、結果につながられました。

後輩へのアドバイス

久保：主体的に勉強するのがいいと思います。グノには、あれやれこれやれという束縛が少なく、生徒一人ひとりを尊重してくれます。それを上手く活用して、周りに流されないで勉強を続けてほしいです。一般的に言われる勉強法、例えば問題集を解きまわるとか、過去問を解きまわるとか、そういうのにしがみつくとではなく、自分が実力を伸ばせると思う勉強法を客観的に考えて実行してください。そんな受験生を支えてくれるのがグノです。

柊澤：グノの指導の特徴は、上からの押し付けがないことです。東大受験生は自由な勉強を好む傾向にあるので、そういう人にとって、受験勉強にも自分の勉強にも合わせやすいのがグノです。グノの授業には押し付けはなくても、知的な刺激には満



仲野 太喜さん（理Ⅰ・駒場東邦）

ちています。グノを存分に利用して、学問の面白さを体験しつつ、勉強以外の高校生活も充実させてください。**仲野**：グノの授業はとても素晴らしいと思います。それをしっかり復習して吸収していく心掛けが大切です。塾に通うのはいいことですが、自分のキャパシティを超えてしまっては意味がありません。その点、グノは、受験生が自分で考える時間を確保しやすい塾ですので、その環境を活かしてほしいと思います。

権代：グノは確かに上からの押し付けが少ないし、受験に特化してガツガツしているわけでもありません。実際、僕も自分でやろうと決めた勉強を自分の責任でやり、それで成長できたと思っています。過去問や他の問題集に集中するよりも、グノを信じて、グノの教材をしっかりと復習することが大事です。良質な教材に繰り返し取り組んで、実力を上げていってほしいと思います。

鈴木：グノはどの教科のどの先生も授業が面白いし、教材も、受験にも受験後にも役立つものばかりなので、きちんと取り組めば必ず楽しくなります。楽しければ続け、熱意も持ち続けられるので、自分にとって楽しい勉強を追求していくことが受験勉強を乗り切る上で大切です。僕は工夫することに楽しさを感じるタイプです。例えば、計画を立てる時も、自分の能力がどのくらいかを知るために問題集を1ページ解いて時間を計ったり、睡眠時間や他の生活時間を24時間から抜いていき残った時間を算出したりして、とにかく計画を改良していきました。そうした楽しさを見つけてみてください。

有村：受験勉強で大事なものは、自分を客観的に見つめて自分の特質や性格をきちんとつかみ、「自分は何をすべきか？ どういう勉強法が合っているか？」を探索することです。グノの先生方は皆さん、信念を持った

教材や勉強法を僕たちに提示してください。だからといって、誰に対してもいつでも同じことしか言わないわけではなく、「こういうことが今の自分は苦手、先生のやり方だとカバーできないかもしれない」と素直に相談すれば、生徒に合わせたお話をしてください。信念は持っているけれど、「生徒は一人ひとり違う」ということをきちんと把握してくださる先生方は信頼できます。上手くいかない時はグノの先生に相談してください。



柊澤 海斗さん（理Ⅰ・開成）

東京大学 理系 Part 3

僕にとって思い出深いのは添削です。

直前期に提出した答案は、遅れて出したにもかかわらず、ありがたいことに郵送で自宅に送ってもらえました。「そこまでしてくれるんだ」という驚きがありました。

大喜 航太郎さん（理Ⅰ・駒場東邦）

だい き こう たろう 大喜 航太郎さん（理Ⅰ・駒場東邦）
たか ぎ ゆう き 高木 祐希さん（理Ⅰ・東京学芸大学附属）
たて いし とおる 館石 透さん（理Ⅰ・開成）
のとう たく や 納藤 拓哉さん（理Ⅰ・攻玉社）

●PDFフルバージョンでは、「東大を志望した理由」
「後輩へのアドバイス」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



入塾のきっかけ

館石：僕は、「なるべく自分で勉強しよう」と思っていて、高2までは塾に通っていませんでした。でも、高2の終わりに「英語は一人ではできないな」と焦り始めて、英語を勉強するのにぴったりのグノを選びました。開成の先輩から良い評判しか聞かなかったことと、高1で講習を受けてみた時の印象が良かったことが決め手です。

大喜：僕もグノに行く前は塾に通っていませんでした。学校の教材をしっかりとやれば良いと思っていたんです。でも、だらしない性格だから、塾に入らないと勉強をきちんとできなくて……。当時は英語が一番得点できない科目だったので、高1の冬期講習からグノに英語で通い始めました。同じ学年で塾に通い始めた友達に意見も聞きましたが、曜日変更が柔軟で部活と両立できることも入塾の決め手になりました。それから、グノの説明会に参加した時、英単語がただの文字の羅列でなく分解できることを知って「面白い!」と思ったのも動機です。

納藤：僕も2人と同じで、高2の9

月に英語でグノに通い始めるまで、塾には通っていませんでした。でも、グノに通っている人が学校に2、3人いて、彼らが僕の隣の席だったこともあって、勧誘されたんです。入室テストがとても難しいと彼らから聞いていましたが、実際にテストを受けてみたら、上から2番目のクラスにぎりぎり入れたので通うことにしました。

高3の夏期講習からは数学と物理と化学も受講しました。英語がとて



大喜 航太郎さん（理Ⅰ・駒場東邦）

も良かったから、「他の科目もいいんじゃないかな?」と思ってグノにしました。

大喜：僕も新高3から数学を追加で受講しました。数学の成績がひどくて危機感を覚えていたので、英語でお世話になっているグノが候補に挙がりました。数学でグノに通っている友達の話聞いたところ、「自分に合っていそうだ」という印象があったからです。学校内では、英語の塾としてのグノの評判は抜群ですが、数学の評判はあまり聞きませんでした。でも、数学を受講してみたら、友達の話から想像していた通りにとても良かったです。

高木：私は高1の冬から英語をグノで受講し始めました。私の学校は皆が高校受験をするので、それが終わってから大学受験用の塾を探し始めます。私は最初他塾に通いましたが、宿題が多いし、予習して授業を聞くのもつまらないし、苦痛になって辞めました。その時、周りの人たちが多く通っているグノが候補に挙がりました。入室テストを受けたら一番上のクラスに入れたのですが、初めて受けた授業はものすごくスピードが速くて、今までにない緊張

感があり、しかも周りの人たちのレベルも高く驚きでした。「ここに通い続けたらきっと英語ができるようになる」と思ってグノに通い続けることを決めました。



高木 祐希さん（理Ⅰ・東京学芸大学附属）

グノーブルの英語

高木：グノの英語の特徴は単語の覚え方にあります。1つの単語の語源から様々な単語を派生させて、それらをセットで絵として覚えるような感覚でした。毎回の授業で同じ語源に新しい単語をどんどん書き足していくスタイルが斬新でした。私は市販の単語帳をたくさん持っていたが、1冊も完成させられませんでした。そんな私でも、授業を受けているうちに、苦痛を感じることなく語彙が増えていきました。本当にグノの教材だけで大丈夫だったので助かりました。

大喜：高木さんの言う通り、単語を分解して語源をつないで、派生語同士をリンクしてセットで覚えられるのは楽しかったです。単語の持つイメージを捉えるとストーリーができ

るので、それが記憶に残ってとても役立ちました。

館石：僕は自分の単語ノートを作ることすら全くしませんでした。授業中の解説を聞いているだけで、たくさん単語が何となく頭に入っていました。語源を軸に単語を分解することが僕にとって斬新で興味深く、関連する単語がどんどん登場する授業は常に刺激的だったので、記憶に残りやすかったのだと思います。

納藤：グノの英語は、授業で扱う英文が面白いという良さもあります。しかも、その英文に関連した先生の解説もとても面白くて、授業に飽きない構成になっていました。僕が鮮明に覚えているのは、ハッブル宇宙望遠鏡とその後継になるジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡の話。先生がニコニコしながら話していらしゃったことです。先生ご自身が授業を楽しんでいるのが伝わってきて印象的でした。

大喜：グノの授業では様々なテーマの英文を扱うので、それらを読むことで社会科学の基礎的な視点まで育て、現代文の論説文を読む時に役立ったこともありました。英語を通して、いろいろな分野の知識が身につきました。

館石：東大形式の演習を繰り返すよりも、様々なジャンルの英文を読んでその背景に触れた方が、結果的には英語もできるようになると思います。グノではそういう方針があったので、僕はとても気に入っていました。**大喜**：高3の要約では、英文の重要なところとそうでないところをコントラストをつけて読んだり、ディスコースマーカーに注意して読んだりしたお陰で、論旨を的確に捉える読み方を身につけられました。

高木：授業内の演習と添削は、本当にいつも気が抜けませんでした。部活で少し眠い時があっても、そんなことを忘れてしまうほど集中できる

授業でした。いつも全力で取り組んで、とても充実した濃い時間でした。

英語が伸びた時期

館石：伸びたと感じたのは、入塾してから半年くらいたった高3の夏です。入塾当初は基礎クラスでしたが、2学期の終わりには一番上にランクアップして、それだけでも伸びたことがわかりました。急に英語が読めるようになって、英語への苦手意識も吹っ飛んだんです。授業で豊富な教材をもらえて英語を読む量が増えたことに加えて、音読というわかりやすい復習方法があったのが伸びの理由だと思っています。音読をしていたら楽しくなってきた、英語の勉強時間が一気に増えました。

大喜：僕の場合、2回波がありました。入塾2か月後くらいしてから「英語は嫌いじゃないな」と思えるようになってきました。入塾時は英語が一番できませんでした。グノで授業を受けていくうちに苦手意識から脱却できて、英語の成績もグッと伸びました。精細に読むことを通して不安定な読み方を改善できて、



館石 透さん（理Ⅰ・開成）

英文を安定して理解できるようになりました。でも、その後に伸び悩んでしまい、次に伸びを実感したのはセンター試験後の最後の最後でした。

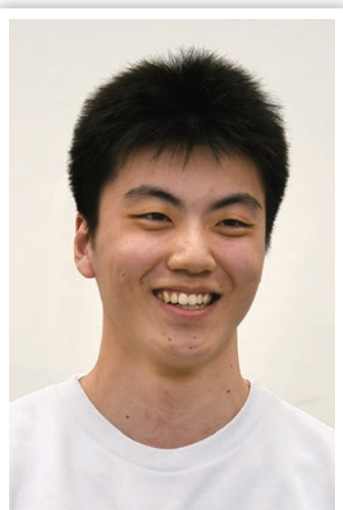
納藤：僕も、塾に入る前は英語の勉強の仕方が全くわからなくて、英語が大の苦手でした。でも、グノの先生方が復習方法を教えてくださったので、その通りにやってみたら、高3の4月くらいに伸びを実感できました。以前の自分と比べて理解度もスピードも格段に上がりました。グノで勧められた復習方法はとにかく音読です。

効果が上がる音読の前提には、グノで用意されていた面白い英文があります。解説を聞いて深く理解できている興味深い英文が豊富にあったから、復習の音読も楽しく取り組みました。

高木：私も音読のお陰で、高2の秋に「読めるようになった」と実感できました。その時は、先生に言われた通りに音読することと、毎週宿題で出される文法テキストにきっちり取り組むことをしていました。そうしたら、長文を読んでいる時に1文1文の意味や文同士の関係がわかりやすくなって、流れるようにスムーズに英文が頭に入ってくるようになったんです。

でも、その後、スピードを意識しすぎて雑に読むようになったら、成績が低迷し始めました。伸び悩みを感じた時、私は「先生に言われた通りに読まない」と思い、意識的にスピードを落としてゆっくり少しずつ読むように音読の方法を切り替えました。先生からはよく「スピードを追いかけてはいけない。内容を生き活きと読むことに意識を傾けよう。スピードは結果だ」と言われていたんです。しばらくして英文全体の構造も見えやすくなって、また伸びを実感できました。

大喜：僕も、1回伸びた後、停滞し



納藤 拓哉さん（理Ⅰ・攻玉社）

た時期を経験しました。この時期は、自分に合った音読方法を見つけられなくて、いろいろなことを試していく時期でもありました。そのうち、「これだ!」というのが段々明らかになってきて、それが高3の最後でした。過去の教材を引っ張り出して工夫しながら音読していく中で、本当に最後の最後の1月にまた伸びました。

舘石：僕も途中でまた「上手く読めないな」という感覚が復活しました。受験直前まで上手く読めないという感覚が付きまとっていました。でも内容をしっかり理解した上での音読は続けていました。結果的に、入試本番では英語で困ることはありませんでした。グノの授業で扱う英文の難度が、冬期講習から直前講習の時期にも上がっていたので戸惑いを感じていただけみたいです。

高木：私も英語がそこまで苦手ではありませんでしたが、グノにいと周りのレベルが高いし、教材のレベルも高くなっていくので、いつまでも「できない」という思いがありました。でも、グノで先生を信じて勉強し続ければ、入試には間に合うので大丈夫です。

グノーブルの数学

大喜：数学は好きでしたが、気づいたら点数をとれなくなっていて、新高3になる時からグノの数学を受講することにしました。特徴的だったのはセルフチェックシートですね。1問1問を大切にしながら自分を見つめ直すので、ミスの原因も、自分の傾向も把握できます。自分を分析することは数学に限らず大事な習慣です。その一連のプロセスを実行できるようになったのが一番の収穫だったと思います。

納藤：高3の夏前までは自分で問題集をやっていました。数学は好きでしたが、高3の受験勉強になるとつまらなくなってきたので、「誰から教わった方がいいのかな?」と思ってグノの数学を受講することにしました。

驚いたのは、グノの数学の問題を実際に解こうとすると、全然手が動かなくて解けなかったことです。それまでは問題集と似たパターンの問題が解けていただけだったと気づいた瞬間でした。

グノでは、問題の解法に至る論理的な思考が鍛えられました。そのうちに、自分の中に蓄積された“解いたことのある問題の個別データ”がつながって、どんな問題にも対応できるようになりました。それまでは、問題を前に「どの解法を使うんだろう?」と解法探しをしていましたが、グノのお陰で考え方が整理され、問題を見た瞬間「これを使うんだ!」とひらめくようになりました。

グノーブルの物理・化学

納藤：グノの物理では、問題集などで個別に紹介されている公式の成り立ちを教えていただけました。成り立ちを知ることは興味深く面白

くことでしたし、公式を忘れる心配がないという安心感も得られました。そして何よりも、少ない問題をじっくり考えるというグノの方針が性に合っていました。僕は、「わからないけれど、もう少しでわかりそう」という難問をじっくり考えたいタイプだからです。じっくり考えて解法の糸口を発見した時の喜びは記憶にくっきり刻まれるので、その問題のことを忘れなくなります。そういう面白い問題にたくさん触れられたことで、物理がますます好きになりました。



大喜 航太郎さん（理Ⅰ・駒場東邦）

化学の授業もとても面白かったです。高3の夏から受講したので、演習が中心でした。標準から応用レベルの問題を僕たちが解いて、先生が丁寧に解説してくださる授業でしたが、授業内容に関連する興味深い雑談も多くて授業に引き込まれました。テキストの問題には授業で扱う4問と宿題の6問があり、宿題も含めてしっかり予習復習すれば、理論も有機も無機も十分カバーできます。3、4週間ごとに同じ単元を繰り返すカリキュラムになっていて、定期的に復習の成果を確認できたのもモチベーションになりました。化学に苦手意識があって、高3の夏からは化学中心に受験勉強をしましたが、グノのお陰で乗り切れました。

グノーブルの先生

高木：入塾直後の私でも、先生方はすぐに名前を覚えてくださってびっくりしましたし、一人ひとりを見てもらえるのは本当にうれしかったです。ボーッとしていると当てられるので、全然気が抜けなくて、ずっと頭を使いながら集中して授業を受けられました。

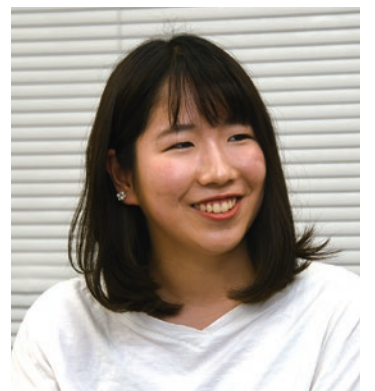
納藤：生徒との距離が近いというか、本当の意味で生徒に優しいというか、常に生徒のことを考えていらっしゃるというのが先生方全員の印象でした。

大喜：先生方が生徒一人ひとりをきちんと見てくださったのは、ありがたかったですね。生徒一人ひとりの特徴やミスの傾向などを踏まえてアドバイスをくださいました。数学の場合、セルフチェックシートのコメントにもそれが反映されていて、的確なアドバイスばかりでした。

舘石：質問対応も親身でした。他塾だと、先生方は授業後にすぐ帰ってしまいます。グノの先生方は、授業が終わった後でもずっと質問に付き合ってくださいます。僕は最初、「くだらない質問で時間をとらせるのは申し訳ない」と思っていたのですが、先生方はそんな僕の質問にもとても丁寧に応えてくださいました。直前期はその場で応えてくださるだけでなく、メールでもすぐに返信がいただけたりと、時間との闘いになる受験生にとってありがたい限りでした。

納藤：僕も、授業外でずいぶん先生方にお世話になりました。化学の直前講習を受けている時、19時頃に授業が終わった後、先生に化学の質問をしつつ雑談をしていたら22時半くらいまで話し込んでいて……。受付の方が「時間ですよ」とやって来るまで気づきませんでした。そんな僕の話に付き合ってくださいました先生には心から感謝しています。

高木：先生方の教養の深さにも感動させられました。私は社会で倫理政経を選択していましたが、グノでの英語の勉強が倫理政経の勉強にもつながっていることが多くて、多方面に知識が広がっていくのを実感しました。それから、先生方がとても楽しそうに授業をされているので、こちらもとても楽しい気分で勉強を続けられました。受験期はどこで塾でも生徒が暗い顔をしています。グノだけは全員楽しそうにしていたのは、先生方のお陰だったと思います。**納藤**：先生が楽しそうなのは、担当科目への愛があるからだと思います。先生自身が楽しみながら教えてくださるので、僕にもその楽しさが伝わり、そのお陰で、ストレスが全くない状態で受験期を乗り切ることができました。生徒が自分から勉強したくなるように指導していただけたので、苦手だった英語にも「自分から触れてみよう」という気持ちになれたんです。



高木 祐希さん（理Ⅰ・東京学芸大学附属）

大喜：生徒への思いも科目への熱意もすべて、先生方の行動に表れていました。授業が終わった後も熱心に教えてくださるし、数学のセルフチェックシートのコメントから伝わってくる熱も半端ではありませんでした。

高木：もちろん英語の先生方もとて

国立大学【医学部】

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）※その他の医学部合格大学

Part 1



いそしま こうたろう
磯島 晃太郎さん
（東京医科歯科大・暁星）
※東京慈恵会医科大、順天
堂大



やまだ かずま
山田 一真さん
（千葉大・駒場東邦）
※防衛医科大、東京慈恵会医科
大、順天堂大、東京医科大

Part 2



たきざわ こうたろう
滝澤 光太郎さん
（東京医科歯科大・筑波
大学附属駒場）
※東京慈恵会医科大



みやもと あつし
宮本 温さん
（筑波大・麻布）

Part 3



あさの しゅん
浅野 峻さん
（千葉大・筑波大学附属駒場）
※東京慈恵会医科大、順天
堂大、日本医科大



しらい こうたろう
白石 耕太郎さん
（北海道大・海城）
※昭和



たうら げんた
田浦 弦太さん
（東京医科歯科大・筑波
大学附属駒場）
※慶應義塾大



なかに りりこ
中田 理々子さん
（群馬大・晃華学園）
※日本医科大



はた しおり
畑 史織さん
（東京医科歯科大・女子学院）
※東京慈恵会医科大、順天
堂大、昭和



たてishi 透さん（理I・開成）

もエネルギーでした。先生方は毎日5、6時間休みなく授業をしているはずなのに、最初から最後まで走り回るように授業をされます。だから、私は「ちょっと疲れているな」と思って教室に来て、先生方のお姿を見て「疲れてなんていられない！」と気持ちが奮い立ちました。

大喜：先生同士が共通の理念の下、同じ指導方針で授業をしてくださったので、英語のクラスが変わっても授業についていきやすかったです。それに、僕たちに接してくださる姿勢や、僕たちのものの見方や思考の深さを育んでくださる姿勢などは、どの科目のどの先生にも共通していたと思います。先生方の指導方針も科目ごとの連携もバラバラな塾もあると聞いていたので、グノで本当に良かったと思っていました。

グノーブルの環境

高木：通常授業も講習も振替ができたので助かりました。ほとんどの塾で講習は振り替えられなかったのが、グノは本当に生徒の都合に合わせてくれる塾だと思います。それから、グノだと、19時過ぎからの授業もあるので、18時まで部活があった私にとっては通いやすかったです。

館石：振替制度には僕も感謝してい

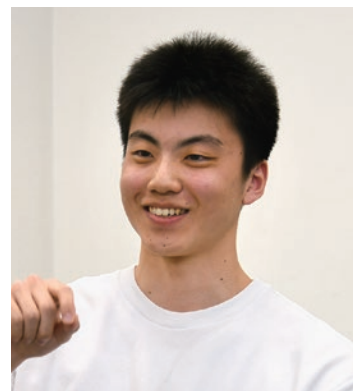
ます。僕の場合は学校行事ばかりやっていたので、高3になっても授業に出られないことが多かったからです。授業を自由に振り替えられたことで塾と学校行事との両立ができて、最後までグノを続けられました。

それから僕は、押し付けられる勉強が嫌いで、なるべく自分のやり方で勉強したいと考えていました。でも、ひとりよがりになって成長がとまってしまうのも嫌でした。そんな僕の方針にぴったり合っていたグノは最高の環境でした。

大喜：僕にとって思い出深いのは添削です。直前期に提出した答案は、遅れて出したにもかかわらず、ありがたいことに郵送で自宅に送ってもらえました。「そこまでしてくれるんだ」という驚きがありました。

高木：グノ全体がアットホームな雰囲気、自分の居場所になっていました。違う学校の友達も何人かできて、一緒に帰ったりすることあつて楽しかったです。私は人見知りですが、誰にでも声を掛けられるタイプではありません。でも、先生が生徒の名前を呼ぶし、授業中には先生と生徒のやりとりが頻繁なので、生徒がお互いを何となく知るきっかけになって、優秀な人たちとも自然と仲良くなりました。

納藤：塾全体に、生徒一人ひとりを大切にする文化があるなと感じてい



ななつ 拓哉さん（理I・攻玉社）

ました。先生方は全員が話しかけやすく、授業も居心地が良くて、ガチガチに勉強しているというストレスを感じたことはありません。質問しに行けばいつも優しく丁寧に教えてくださるので、何度も質問に行きました。受付の方々もまるでホテルの受付のように親切かつ丁寧でした。グノの環境はとてありがたかったです。

国立大学 医学部 Part 1

教室はいつもきれいだったし、余分な張り紙などもないので集中できました。
空調も整備されていて過ごしやすかったです。受付の方々は、
電話の時も実際にお話する時も、とても親身になって対応してくださいました。

磯島 晃太郎さん（東京医科歯科大・暁星）

いそしま こう たろう
磯島 晃太郎さん（東京医科歯科大・暁星）※東京慈恵会医科大、順天堂大
やまだ かず ま
山田 一真さん（千葉大・駒場東邦）※防衛医科大、東京慈恵会医科大、順天堂大、東京医科大
※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「医学部を志望した
動機」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



入塾のきっかけ

磯島：暁星の生徒は大体、中学入学時に塾を探しますが、僕は塾探しをしていませんでした。そんな僕の母に、「息子をグノーブルのスタートダッシュ講座*に通わせるけれど、一緒にどう？」と声をかけてくれたのが友人のお母さんでした。これがきっかけで、僕は数学のスタートダッシュ講座を受けることになりました。講座にはほぼ飛び入り参加でしたが、先生がすぐに名前を覚えてくださったことにとても感動して、数学と英語でグノに通うことになりました。中学時代はグノの具体的な良さを実感していたわけではありませんが、学年が上がっていくにつれて本当の素晴らしいさに気づいていきました。

山田：僕は磯島君より入塾が遅くて、中3の冬期講習から通い始めました。とても英語が得意で仲の良い先輩がグノに通っていたことがきっかけです。僕はもともと英語が苦手勉強の仕方もわからなかったのですが、実際に講習に通ってみると、アットホームなクラスの雰囲気と予習がなく問題を授業中に解くというスタイ

ルがとても気に入って、そのまま通うことにしました。



磯島 晃太郎さん（東京医科歯科大・暁星）

駒東は他塾に通う人たちも多かったですが、他塾の噂はあまり聞きませんでした。一方、グノに通っている人たちは、学校でグノの会話をしていることが多かったです。僕も後輩にグノの話をして入塾させたくらいです（笑）。

磯島：暁星では、他塾に通っている人たちが、「宿題がづらい」「学校と

の両立がきつい」などと言っていました。グノの評判はというと、「グノに通っている人は英語がものすごくできる」と言われることが多かったです。もともとグノに通っている人は少なかったんですが、良い噂が多かったためか、高1高2から増えてきました。

グノーブルの英語

磯島：グノの英語といえば、市販の単語帳を使わない点が特長です。僕は最初、単語帳を使わないことに不安を感じて単語帳を始めたこともありましたが、でも、グノの先生方を信じて、語源からの説明で理解した英単語を、グノで扱った英文を何度も読み込んで覚えていくように変えたら、英文に未知の単語が出てきても困らなくなりました。語源から意味を推測できるからです。高3の夏以降は、単語帳を使っていないことがかえって自信になったくらいです。
山田：僕も、語源から単語を覚えるのは本当に面白いと思いました。先生が黒板に図や絵を描いたり、さらには体まで使ったりして単語のイ

メージを表現されるので、初めて授業を受けた時は、「面白い授業だな」という印象を受けました。そんな先生のお陰で、単語がイメージとともに頭の中に湧き出るようになりました。中学の時は単語帳を使っていましたが、それよりもはるかに連想しやすくなって、単語に関しては困りませんでした。

それから、グノの教材は興味深いものばかりでした。AIのニュースや日野原重明先生の話など、時事的な英文や学術的な英文を読めてとてもうれしかったです。今度TOEFL®の受験を考えていますが、グノーブルで様々なジャンルの英文に慣れているので不安はありません。

磯島：グノの英語の授業では、英文と先生の解説を通じて時事的な話題、哲学、人生観など様々なことを教わりました。受験勉強というより社会勉強に近いものがありました。僕の場合、英語を使って教養を深めるのが楽しくて、そのために毎週通っているとっていいくらいでした。

山田：確かに、グノの授業は、英語の勉強だけにとどまらず、医師に必要な教養までもが授業にちりばめられていたように思います。直前講習で扱ったアメリカの研修医のエッセイの内容はよく覚えています。そういう英文が医学部の面接で使えたり、小論文のネタになったりしました。

グノで扱った英文の中には、論理的思考を鍛えるのに適しているものも多くありました。最初に問題提起をして、それに対して後の文章で考察するというスタイルの英文を読んでいると、自分の思考回路も英文の論理に近づいていくんです。僕は、面接や小論文の対策は特にしませんが、普段から英文を読む時に論理的に考えるようにしていたので、入試本番の面接ではスラスラと話せたり、サラサラと小論文が書けたりしました。

磯島：先生はいつも要約の英文を解説する時に「トピックセンテンスが出てきたら、それに対して『どういうことなの？』と思いなさい」とおっしゃっていました。これが面接でも役立ちました。僕は最初に大切なことを言って、面接官が「どういうことなの？」と質問したくなるようにしたんですね。すると、面接官とのやりとりが面白くなって、面接ではあまり緊張しませんでした。

英語の勉強法

山田：英語の勉強の中心は音読です。先生方の解説は、英文を語順通り前から読んでいき、振り返りすることはほぼありませんでした。それを真似て、自分で読む時もいつも前から読んでいました。文構造が複雑でも、何度も読んで理解できるので、その段階まできたらその日の音読はおしまいにすることにして毎日音読に取り組みました。

磯島：僕も音読をして復習していましたが、最初の頃は、コツがつかめませんでした。たくさん音読すればいいんだと思い込んで、ひたすら声に出して英文をどんどん読み飛ばしていました。そんなことをやっていたら、一時期、かえって英語が全然読めなくなってしまったんです。

悩んで先生に相談したら、「量を減らして、よく理解できている英文、例えば要約の英文だけに絞って、内容を人に読み聞かせるつもりで読んでみましょう」とアドバイスをいただきました。その後、音読の前に熟読して授業内容を頭にとどめてから、英文の内容を自分が喋っているつもりになって音読するようにしました。このやり方には効果がありました。英文の内容がどんどん頭に入ってくるようになったんです。

誰も相手がいないと読みづらい気



山田 一真さん（千葉大・駒場東邦）

がしたので、人形を前に置いて、それに聞かせるつもりで音読もしました。それから、自分がステージに立っている様子を思い浮かべながら、椅子の上に立って音読するのも楽しかったです。「自分は英語でスピーチできるんだぞ」という高揚感に包まれ、モチベーションアップにもつながりました。慣れてくるとスラスラ読めるようになって、「英語ができるようになった」という自己肯定感を得られました。

山田：僕の場合は普通に座って英文を読んでいたけど（笑）、誰かに読み聞かせる意識は大切にして音読していました。

英語が伸びた時期

山田：高1高2の頃は、グノの授業を休むことはなかったのですが、部活優先でした。真面目に取り組むことを決めたのは部活引退後、高2の10月からはGSL*や音読に毎日取り組みました。効果が表れたと実感できたのは高3の夏です。この頃には、英文をスラスラ読めて、内容もすぐに頭に入ってくるようになっ

ていて、「英語が得意になったな」と自信も持てるようになりました。

磯島：「単語帳を使わない方がいい」と納得できたのは、グノで新高3になった冬期講習から担当していただいた先生の解説に、ものすごく説得力があったからです。その前までは単語帳の暗記にも力を入れていて、他の人が知らない単語を知っていることで点数をとっていたくらいです。

でも、新高3の授業が始まると、毎回の演習で、自分の力のなさと同じ合わなくてはなりません。市販の単語帳で覚えた知識だけでは対応できない英文がどんどん出てきました。英語と日本語の対応で単語を覚えるやり方では応用力もなくて、添削対象の要約も毎回のように撃沈でした。

「本当にマズイ」と危機感を募らせ、「先生のおっしゃる通りにしよう」と思ってグノの方針に切り替えました。その結果、夏休みの全統模試で良い結果が出ました。

でも、2学期になるとグノで扱う英文のレベルが上がり、またまた毎週グノの要約で打ちのめされることになりました。この時の先生から受けたアドバイスが、先ほども話した「よく理解できている英文を人に読み聞かせるつもりで」というものでした。このアドバイスのお陰で、冬から受験直前期にかけて英文をスラスラ読めるようになりました。グノでは毎回かなりの量の英文が用意されており、それらをすべて消化できるようになって、模試でも英語の成績が安定しました。

ただその後も、音読ができなかったり、英語に触れない期間が続いたりすると、英文を読んでも文字を目で追っているだけの状態になって、内容が頭に入ってこなくなることを経験しました。ですから、短時間でも英語には毎日必ず触れるように心掛けていました。



磯島 晃太郎さん（東京医科歯科大・暁星）

山田：僕も高3の秋にそういう時期がありました。英語が安定してきたので、受験勉強の後半では、理科の勉強にウェイトを置いたんです。音読できない日が続くと、英語が読めなくなってしまいました。でも、防衛医科大とセンターを受験した後から、過去問を解き始めたら、また英語を読めるようになりました。私立入試でも英語がスラスラ解けて、受験本番では英語に助けられたくらいです。過去問演習で英語に触れる時間が増えたのが良かったのだと思います。グノで最初に英語をやりこんでいたので、英語に触れない期間に停滞しても、英語の勉強を再開すれば力が元に戻ったのだと思います。

グノーブルの数学

山田：数学は新高3の冬期講習から受講し始めました。グノに通っている仲の良い友達が「グノの数学は面白い」と言っていたのが受講のきっかけです。グノは英語の塾という印象が強かったので、数学をグノにするかどうかで最初は悩みました。でも、実際に講習を受けてみたら、先生の数学に対する愛がひしひしと伝わってきて、「この授業はとても面白い」と思って1年間の受講を決めました。

もともと数学は得意科目でしたが、グノの授業では結構打ちのめされました。問題集に載っているのと似たような問題にばかり取り組んでいたから得意な気になっていただけで、実は基本的な数学の考え方や方針の立て方すらできていない、ということを実感させられました。そんな自分の本当の姿を認識できたのはセルフチェックシートのお陰です。最初は「こういう問題が来たらこういう方針で解く」などとシートに書いていましたが、最後の方では「方針は立てられただけで、複雑な計算でミスをした」など書くことが多くなりました。「計算ミスだからいいや」と軽く考えていたことと向き合い、「自分はケアレスミスが多い」と強く自覚するようになったら、計算ミスが減りました。セルフチェックシートは自分を客観視できるという点で優れていると思います。

数学で伸びたのも高3の夏です。東大模試を受けてみたら数学の偏差値が65だったので、「数学ができる」という自信につながってます。数学が好きになりました。その後、解かなくていい難問にチャレンジするなど、数学は趣味みたいになっていきましたし、入試本番まで実力を維持することもできました。

グノーブルの先生

磯島：高2までは「様々な先生がいらっしゃるな」と思っていました。それぞれの授業で雰囲気も違っていたからです。和気藹々^{わきあいあい}としているクラスもあれば、静かに集中しているクラスもありました。そして、高3の英語で読解の先生のクラスを受けたところ、「すべての先生の魅力がこの先生にはある」と思い、また、グノには統一された軸があることも

その時に気づきました。

山田：どの先生も、授業を通して勉強の楽しさを伝えてくださいました。勉強を嫌々やるのではなく、「これは楽しそうだから解いてみようかな」と思えるようになったのがありがたかったですね。興味のあるものはやはり集中して取り組みますから、興味を持るとそれが一番の強みになります。

磯島：先生方は全員名前をすぐ覚えてくださいますし、先生が指名して生徒が答えるというコミュニケーションもあって、授業がとても楽しいものでした。生徒が変なことを言っても、先生方は優しく受け入れてくださるのも安心感がありました。

他の塾に通っている同級生と比べても、やはり「僕の方が勉強を楽しんでいるな」という自信がありました。グノの英語の授業には、理科や数学や哲学など、他領域の知識ももりばめられています。だから、グノで学んだことが他教科でも出てくると、知識のつながりを実感できてうれしくなることがよくありました。そのたびにグノの英文をもう一回読み直していたので、英語は定着するし、他教科の勉強も捗るし、とても良いサイクルが出来上がりました。

山田：授業の楽しさは、自分の担当科目を愛する先生方の熱意から来るんだと思います。先生方が全員、黒板に絵を描いたり、科目の面白さが伝わる雑談をしたりと、生徒がどうやったらその科目を好きになってくれるのかを考え抜いて、その結晶みたいなものを授業で提供してくださいます。いろいろな工夫をしながら科目の面白さを生徒に伝えたいんだという熱意が伝わってきました。

数学の先生方は、ご自身でもたくさん問題を解いた上で良問を精選されていて、しかも毎回手書きでびっしり書かれた解答解説をコピーして配ってくださいました。「手間がか

かっているな」とわかる教材をいただく、先生への感謝の気持ちが生じて、僕も自主的に勉強する気になりました。「先生がこれだけがんばっているのに、生徒である自分ががんばらなくてどうするんだ！」というも思っていました。

磯島：グノのHPには、先生方の挨拶文のコーナーがあって、そこに「皆さん一人ひとりと向き合いながら」というようなことが書かれています。まさにその言葉通りの授業でした。さらには、先生方の優しさにも心打たれました。特に印象的だったのは、英語の要約の授業です。毎回クラス内の点数分布表が黒板に書かれて、右側は点数の良い人、左側は点数の良くなかった人に分かれます。先生は「左側にいる人たちの方が得るものが多いんだと考えてください。点数が低いということは課題がたくさん見つかったということです。解説を参考にそれを力に変えていけます」とおっしゃって、点数が低い生徒のやる気を盛り上げてくださるんです。高い点をとればやる気につながるし、低い点をとっても先生に励ましていただけて、どんな点数でも自然と「がんばろう」と思える雰囲気がありました。

山田：熱意は授業時間の延長という形で表れていました。高3英語は2コマ連続で最初は結構きついの



山田 一真さん（千葉大・駒場東邦）

はないかと予想していました。でも、実際に2コマ連続を受けてみて、体は疲れても精神的な疲れは全くなくて、毎週授業後は充実感や達成感で満たされていました。特に読解の授業は、演習時間が短く感じられるし、自分が知りたいところが次々と解説されていくので夢中になれるし、時間の長さを感じずに最後まで集中して授業を受けていました。

グノーブルの環境

磯島：教室はいつもきれいだったし、余分な張り紙などもないので集中できました。空調も整備されていて過ごしやすかったです。受付の方々は、電話の時も実際にお話する時も、とても親身になって対応してくださいました。筆記用具を忘れた時も、受付に相談すると貸していただけるので、安心して授業に臨めました。

山田：僕も受付には随分とお世話になりました。高1高2の時は、部活で振替が多く、いつも受付に電話していました。それにもかかわらず、受付の方は親切に対応してくださいまして、気軽に振り替えられました。もちろん、頻繁な振替は迷惑だとわかっていましたが、それを気兼ねなくできるグノのシステムのお陰で本当に助かりました。

後輩へのアドバイス

山田：グノの先生方は全員、プロフェッショナルです。自分の担当教科に精通しているだけでなく、長年受験生を指導してきた経験をお持ちです。だから、どうやったら生徒が伸びるのか、どんな勉強法が適切なのかといったことを熟知されていて、僕たちの質問にも嫌な顔ひとつせず丁寧に応えてくださいます。勉強法

に悩んでいたりと、成績が伸びずに困っていたりする人は、先生に質問してみてください。先生の助言に従って真面目に手を抜かずに行えば成績は伸びます。グノの先生方を信じていけば大丈夫です。

磯島：受験本番は近づいてくると、

かなり不安になって、「本当にこれで大丈夫か？自分の勉強法は正しいのだろうか？」と疑心暗鬼になります。そんな状況下でも、気持ちを明るく持ってほしいと思います。僕の体験ですが、気持ちを明るく持った時の入試はかなり結果が良かったで

す。そして、気持ちを明るく持つためにも、何かを信じることはとても大切です。グノに通っているのですから、グノを信じてひたむきにがんばってください。

12期生 合格者インタビュー

国立大学 医学部 Part 2

たきざわ こう たろう
滝澤 光太郎さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）※東京慈恵会医科大

みやもと あつし
宮本 温さん（筑波大・麻布）

※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「医学部を志望した動機」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



数学は中1から受講していました。

中学3年間は少人数で、伸び伸びと勉強していました。グノの進度は

僕の理解力にもびったりだったみたいで、着実に単元ごとに力が定着していきました。

滝澤 光太郎さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

入塾のきっかけ

宮本：初めてグノの授業に参加したのは新高1のフレッシューズ講座*です。もともと姉がグノに通っていたので、「グノはいいよ」と絶賛していたので、僕も「英語に通ってみよう」と思いました。

滝澤：僕は中1の通常授業からグノの英語に通っていました。僕の学校では、ほとんどの人たちが中1から塾通いを始めます。そんな雰囲気の後押しされ、「どの塾に入ろうか？」と思っていた時に、僕の場合も姉の言葉が決め手になりました。「グノ

は絶対にいい」と強く勧めてきたんです。

筑駒では、「グノの英語はすごくいい」と評判ですが、最近では「国語もいい」と言われています。僕も高1で古文を受講しましたが、本当に評判通りでした。他塾に通う人の中にも、グノの古文を受講する人が何人もいました。

宮本：今年の受験結果を見ると、麻布のグノ生がたくさん第一志望に合格していて、「グノはすごかったんだ」と改めて実感しました。もちろん、グノに通っている僕たちはグノの素晴らしさをわかっていました

が、学校全体にはまだその素晴らしさが浸透していないように感じます。

滝澤：グノには、先生と生徒が一体になって授業を進めている雰囲気があります。他の予備校の授業を受けたことがあります。先生が一方的に喋って生徒がノートをとるだけなので、先生と生徒の距離がとても遠い印象でした。それと、他塾に通っている友人たちの中には、勉強がとてつらそうにしている人がいました。グノに通う人がとても楽しく勉強しているのとは対照的でした。



滝澤 光太郎さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

グノーブルの英語

宮本：グノの英語の中心にあるのは音読です。音読を重視して英語の総合力を上げていくというのは他塾にはない特長です。普通は、英語の勉強といえば、単語、熟語、文法事項、基本構文などの暗記が中心です。そういう暗記中心の勉強は、本当に受験のためという印象です。

一方グノでは、単語帳の暗記すらありません。単語は語源から楽しく解説されますし、文法事項も成り立ちから説明してもらえて、ネイティブが使っている感覚を養うことに重点が置かれています。英文も返り読みはせず、語順通り前からネイティブと同じ感覚で解釈していくように指導してもらえます。それらの総合的な仕上げが音読です。音読するための英文教材も、音声教材のGSL*も毎週豊富に用意されています。この勉強方法は、受験英語にとどまらない英語力を養うのに最適でした。

滝澤：グノでは、受験科目としての英語ではなく、言語のひとつとしての英語を学べます。例えば、僕たちが日本語を喋れているのは、赤ん坊の頃から日本語に毎日触れていて、

日本語に関する知識も豊富にあるからです。それと同様に、英語にも毎日触れるべきだし、英語に関する知識も増やす必要があるということ、グノの先生方は授業で熱く語っていらっしゃいました。最初の頃は「受験のためには受験英語中心の塾の方がいいかな？」と思ったこともありましたが、グノの楽しい授業を受け続けているうちに、「言語学習としての英語の方が絶対にいい！」と確信するようになりました。

ですから、僕は市販の単語帳を全く使わないで6年間やり切りました。授業でしっかり語源を教えていただけたし、特に基本動詞や前置詞は、先生の動作や黒板に描かれた絵付きで解説されて、そのインパクトが強かったのも、単語帳に頼らずとも自然と英単語を覚えられました。わからなかった単語を書き出して自分で単語帳を作ったのも効果的でした。僕の周りは市販の単語帳を使っている人ばかりでしたが、自分で作った単語帳が「自分の苦手な単語リスト」になっていたのも、「これさえあれば大丈夫！」と自信を持てました。

宮本：僕は滝澤君と同じで、語源から単語を覚えたお陰で、実際の試験で未知の単語が出てきても推測できるようになりました。1つの単語の語源から関連する語を派生させたり、既習の単語に頻繁に先生が触れてくださったので、重要単語に何回も触れる機会があって、自然と語彙が増えていきました。だから、僕も市販の単語帳を全く使いませんでした。他塾の人が暗記に使っている時間を僕は音読に使えて、総合的な力を上げられたと思っています。

滝澤：先生の熱意にはすごいものがありました。1回1回の授業で熱が伝わってくるので、「自分もしっかり授業を聞かないと！」という気持ちになりました。授業に集中してい

るので、家で音読する時も「先生はこの文を強調していたな」「この単語では、こんなジェスチャーをしていたな」と記憶が蘇ってきて、効果的に復習できました。

宮本：確かに、グノの先生方の影響は大きかったです。先生方の「毎日音読しよう！英語に触れよう！」というアドバイス通りに音読を続けていたら、英語のリズムや言い回しが自然と頭に入ってくるようになりました。音読の効果は絶大でした。

それから、毎週用意される英文は様々なジャンルの楽しいものばかりでした。内容に興味を持って、ある程度の長さで完結していて、論理の整合性もとれていたのも、僕たちの実力を伸ばすのにはぴったりなものばかりでした。僕たちの実力にマッチするクオリティーの高い英文を選んでくださった先生方に感謝しています。

英語が伸びた時期

滝澤：僕は中1から最上位のクラスでした。「このクラスをキープしたい」と思って必死にがんばっていたので、浮き沈みもありませんでした。



宮本 温さん（筑波大・麻布）



宮本 温さん（筑波大・麻布）

のありますが、自分からグノを活用していくという生徒側の姿勢も大切です。先生方に話しかける勇気があれば、グノの先生はどこまでも親身に対応して下さいます。後輩の皆さんには、自分で積極的にグノをアットホームな雰囲気にしてほしいと思っていますし、グノを「第二の家」にするととても楽しくなります。

受験は精神的にきつい時が何回かありますが、そういう時こそ「第二の家」の先生方に相談してみてください。グノの先生方を信頼すれば必ずいいことがあります。

それから、グノにまだ通っていない人に6年間通った僕から言いたいのは、「グノの授業を受けないなんて損だよ！」ということです(笑)。

もありがたかったですね。また、困ったことがあればいつでも受付に行っていました。受付の方が親切で丁寧だったのでいつも助かっていました。

それから、僕の学校では高3の11月に文化祭があるので、10月はほとんど塾に行けませんでした。グノの先生方はそのことに理解を示してくださっていましたが、先生方にわかっていただけているというだけで、安心して打ち込みましたし、その後もすぐに勉強に切り替えられました。受付の方にお願ひすれば欠席教材を郵送で送ってもらうこともできました。塾まで取りに行かなくても良くて、とても生徒思いの塾だと思います。グノーブルは全体的に柔軟で、そこも魅力のひとつです。

後輩へのアドバイス

宮本：英語でグノに通っている後輩たちに伝えたいのは、「音読の効果を甘く見ない方がいい」とことです。音読というと「これだけでいいの？」と思う人も多いでしょうが、実際に取り組んでみると本当に英語の総合力が上がって得意になれます。音読を継続しないで問題集や単語帳に手を出しても、あまり効果はありません。グノが「音読だけでいい」と言うのだから、グノを信じて音読重視で英語を勉強してください。皆さんには、なるべく早く音読の良さや効果に気づいてもらいたいです。

滝澤：僕は高3の夏まで部活をし、高3の11月には文化祭があり、それほど勉強の時間を確保できませんでした。その中で意識したのは、中身のある勉強をすること、時間の管理をちゃんとして、この2つでした。

グノはアットホームな雰囲気です。先生方が雰囲気作りをしてくださる

特に数学の先生には本当に様々な相談をしました。自分の不安とか弱音とかは全部先生にぶつけていた気がします(笑)。先生はいつも親身で、しかも僕の心理状態を的確に把握してくださるので、心強いものがありました。

他にも、いつも汗だくになるまで本気で授業をしてくださった先生方の姿もとても印象に残っています。それから英語の先生の博識さには毎回驚くばかりでした。裾野の広い知識や深い教養を持っていると同じ英文でも全然見え方が違ってくるかわかって何度も感動していました。

宮本：授業になると、先生方が本当に一生懸命説明して下さいます。だから、「僕も先生に負けないくらい真剣に聞いてやろう！先生が言ったことをすべて吸収してやろう！」という気持ちで授業に臨めました。

滝澤：「先生がこんなに必死になっているんだから、こっちもちゃんと吸収しなきゃ！」という意欲が自然と湧いてきました。グノは、大手予備校の歴史や規模に比べれば新しく小さな塾です。でも、先生方に対する信頼感を持てる塾でした。合格実績も申し分ないので、「グノを信じる」という気持ちを6年間持ち続けられました。

グノーブルの環境

宮本：振替ができない塾が多い中で、グノは授業を振り替えられるのが良かったです。僕はサッカー部だったので、急に練習が入ったり、大会前に緊急のミーティングが入ったりと、毎週特定の曜日の授業に参加できない状況でした。だから、振替制度を頻繁に利用させてもらいました。

滝澤：僕も中高では野球部で、練習が毎日ありました。だから、19時15分から始まるグノの授業はとて

した背景をしっかりと知ることができて、1つの公式に対して様々な見方ができるようになったからです。授業内容が本格的に受験物理らしくなったのは高3の後期でしたが、それまでに学んできた見方や道具を駆使すれば様々な問題に対応できるということを実感しました。グノのお陰で、物理は最も自信の持てる科目になりました。

グノーブルの古文

滝澤：高1の1年間、グノの古文を受講しました。学校の先輩から「グノの古文はとて面白い」と勧められたからです。1年間の受講以降は、受験までほとんど古文に時間を割く必要はありませんでした。それぐらい定着度が高い授業でした。

担当の先生は本当に面白い方で、授業を存分に楽しませていただきました。自分の学校の人も同じクラスに多かったのも、仲間と一緒に授業を受ける楽しさもありました。

グノーブルの先生

宮本：先生と生徒の距離感がグノの魅力です。大手予備校と違って、先生方が生徒一人ひとりを認識してくださっている信頼感がありましたし、先生方はいつでも生徒に付き合ってくださいましたから、気軽に質問できました。例えば、僕は英語の先生にわからないところを食い下がって何回も質問したのですが、先生は嫌な顔ひとつせず丁寧に対応してくださいました。

滝澤：6年間通いましたが、先生方が自分のことをわかってくださっているのを肌で感じていました。先生方を信頼して相談できるのがグノの強みだと思います。

れたのはこの時期でした。

高3では、さらに受験で戦える数学を意識した授業になって、宿題の量も増え、難度も上がりました。僕はゆっくり味わいながら数学を学んできたお陰で、高3でも程よいペースを維持できたと思っています。

数学の授業で毎回楽しみだったのは、セルフチェックシートです。自分のことを見つめ直して、それを文字に表すというのはとても勉強になるからです。できないことを反省すると印象に残りますし、「次はできるようにしたい」という動機にもつながりました。

グノーブルの物理

滝澤：高2の夏から物理を受講しました。受験物理という枠組みをとっぱらって、「歴史上の偉人が、こういう考えをして、こういう法則を見出してきた」ということを皆で一緒に考える授業でした。学校でも物理の授業はありましたが、「この公式をこういう時に使いなさい」という教え方しかしてくれなかったのも、正直なところ面白みはありませんでした。

一方グノでは、物理を歴史のストーリーとして面白く学べて、毎回の授業が楽しみでした。公式が誕生



滝澤 光太郎さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

ですから、どこで伸びたかはよくわかりません。中学の頃は、英文を後ろから返り読みして日本語に訳していた時期もありました。でも、グノで受けた指導のお陰で英文の語順のまま読む習慣がついたら、とても読み取りやすくなりました。

実際に模試でも、学校のテストでも、私大の医学部を受験した時にも、いつも英語をスラスラ読めている感覚があったので、力がついていたのは確かです。

宮本：僕が伸びたと感じたのは高3の1学期です。先生が勧める方法で音読に取り組んでみたら、本当に読めるようになったんです。逆に、音読をサボった時期に英語ができなくなって、「やっぱり音読は重要だ」と改めて実感しました。英文を頭の中で日本語に訳さず英語のまま読む習慣が身についたので、入試本番でもスピーディーに読めました。

グノーブルの数学

滝澤：数学は中1から受講していました。中学3年間は少人数で、伸び伸びと勉強していました。グノの進度は僕の理解力にもぴったりだったみたいで、着実に单元ごとに力が定着していきました。授業中の演習も自分のペースで取り組める仕組みで、どんどん先にいくこともできたり、速い人には先生がさらに先に進む問題を渡してくれたのも良かったです。それぞれのペースが違って、先生は教室の中を回っていつも一人ひとりを見てくれていました。

高校になると雰囲気が変わりました。数学で使う道具をしっかりと理解した上で、自分の行動原理を意識できるようにするための授業になり、楽しさを味わう授業から受験を意識した実践的な授業になりました。直感に頼るのではなく論理力が鍛えら

国立大学 医学部 Part 3

高3になってからは、数学のセルフチェックシートで自分のミスを確認できたのが勉強になりました。最初はそのシートを書くだけでかなりの時間が掛かりました。ケアレスミスが多い私には、その作業はとても役立ちました。

畑 史織さん（東京医科歯科大・女子学院）

あさの しゅん （千葉大・筑波大学附属駒場）
浅野 峻さん ※東京慈恵会医科大、順天堂大、日本医科大

しらishi こうたろう （北海道大・海城）
白石 耕太郎さん ※昭和大

たうら げんた （東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）
田浦 弦太さん ※慶應義塾大

なかた りりこ （群馬大・晃華学園）
中田 理々子さん ※日本医科大

はた しおり （東京医科歯科大・女子学院）
畑 史織さん ※東京慈恵会医科大、順天堂大、昭和大

※その他の医学部合格大学

●PDFフルバージョンでは、「医学部を志望した動機」、「英語が伸びた時期」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet21/



入塾のきっかけ

白石：中学1年の夏に入塾しました。グノの説明会で清水先生のお話に感動したのがきっかけです。僕はニューヨークに住んでいたのですが、当時は英語に自信があっただけで、そんな僕でしたが、僕自身が日本の中学校の授業で不満に思っていたことを清水先生がおっしゃっているのを聞いて、「ここで英語を勉強したら伸びそうだし、知らないことを学べるんじゃないかな？」と強く心惹かれました。母は他塾も検討していましたが、僕は自分の強い意志でグノに決めました。

田浦：僕は、中2の時に、親の勧めで入塾しました。当時は理系科目が得意で、英語が不得意でした。だから、「塾に入って英語を勉強したい」と親に相談しました。親は、グノに通っている友達のお母さんから評判を聞いていたみたいです。

畑：私はおふたりと違って、中3の冬に数学で入りました。私の学校は数学の進度が遅くて、他塾では三角比のサイン・コサイン・タンジェントを知っている前提で授業が進む中、それを知らない私は授業についてい

けませんでした。だから、最初は他塾の授業についていきたくて、グノで三角比の講習を受講しましたが、結局グノの方が気に入って転塾しました。数学の授業を受けているうちに「ここだったら続けられる」と思って、高1で英語も受講することになりました。



浅野 峻さん（千葉大・筑波大学附属駒場）

浅野：高1の夏まで、別の塾の英語に通っていました。そこで偏差値30台をたたき出してついていけな

くなり、転塾することになりました。親の知り合いが「グノは先生がいい」と言っていたり、受験を終えた人が「グノの先生は素晴らしい」と話していたので、講習を受けてみから入塾を決めました。

残念ながら現役では志望大学に合格することができず、次の1年も別の予備校に通いながら英語だけはグノに通い続けました。

中田：私は中3の夏に入塾しました。自分では「塾に行こう」とすら考えていませんでしたが、英語が苦手だったこともあり、評判のいいグノを父に勧められたんです。

私も現役時に結果を出せず、予備校に席を置きながら英語はグノに通い続けました。

グノーブルの評判

中田：私の学校では、グノに通っている人が多かったわけではありませんが、通っている人は英語の成績が皆良かったんです。その中にグノのファンが一人いて、その人が高3英語の読解担当の先生のこと大好きだったんです。会うたびにその先生の話をしていたことを覚えています。

他の通っていた人たちも本当にグノが大好きでした。

畑：女子学院でも、最初のうちはグノに通っている人はあまりいませんでした。それが段々と増えてきて、最終的には相当な人数になっていました。グノ生の中から「授業がつまらない」という声は聞いたことがありません。

白石：海城も同じで、中学の時はグノに通う人は少なかったんですが、段々と増えていきました。通っている人は皆楽しく通っていて、学校の休み時間にも「今日は数学の宿題を皆でやろう」という勉強会が開催されたりして、グノ生が集まって勉強していました。そんな環境だったので、グノで中等教育を終えたという感じすらあります。

田浦：僕の学校では、英語や数学に加えて、「古文が良かった」という評判をよく耳にしました。実際、古文に通っている人も多かったんです。

浅野：僕の代の筑駒では、同級生のグノ生が3、4人集まって、その週の授業の話で盛り上がりたりしていました。「めっちゃくちゃ面白い」という声は上がっても、文句や不満は一切出てきたことがありませんでした。



白石 耕太郎さん（北海道大・海城）

宿題も他塾よりは少なくてやりやすいですし、毎週の授業をきちっとやれば力がつくので、グノ生は全員感謝していました。

グノーブルの英語

畑：英文を後ろから読みしないうで前から読む力がしっかり定着したことが良かったと思っています。私は入塾時から自分なりに、英文を頭から読もうとしていましたが、最初は何となくのフィーリングで読んでいただけでした。読めない英文に出会うと読み返して日本語で考えたりもしていました。

前から読む力を身につけられたのは、グノでちゃんと英文法を学べたからです。グノの授業では、文法用語での説明を重視するのではなく、英語の語順のままに処理することが重視されていました。基本構文のSentences for WorkoutはGSL*にもなっていたので、耳からも文法を定着させられました。

授業が演習から始まって、そこで解いたものをその場で添削していただけるのもうれしかったです。自分の課題がはっきりしている段階で解説が聞けるので、英文全体がすっきり理解できて復習もとてもやりやすかったです。

中田：グノの特長は1回の授業の内容の濃さです。先生方は添削を通して私たちの課題を把握してから解説をされるし、私たちも知りたいところがはっきりしている状態で解説に集中できるので無駄がないのだと思います。

英文全体の主旨や構成を深く理解するために、先生はその英文の背景的部分にも時間を掛けて、興味深いお話をしてくださいました。英語の知識だけでなく様々な考え方もたくさん学べる授業でした。受験勉強はもっと苦しいものだと思っていた



田浦 弦太さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

したが、グノの英語はとにかく面白かったです。

私は高3までグノ以外の塾に通ったことがありませんでした。1年浪人することになって、初めて大手予備校で英語の授業を受けましたが、進度は遅いし、1回の授業の演習量も少なく……その時初めてグノのすごさを実感してグノに戻ることにしました。

浅野：グノの授業の質は本当に高いです。他とは比べものになりません。確かに外部にも良い授業はありますが、グノの授業はそれらをはるかに超えるものがありました。先生方が本当にすごいと思います。特に読解の先生からあふれ出す知識がとても深く、直近の1年間はそれを生きがいに通っていました。使う教材が分厚いテキストとして固定化されているのではなく、薄い冊子とプリントなので、常に最新の話題を英語で読めたのもすごいことでした。

授業の仕組みも独特です。一般的な授業は、集中するために生徒側がかなりがんばらないといけませんが、グノの場合、最初の要約演習から自然と集中できます。演習した答案はすぐに添削してもらえるので、自分

* GSL (Gnoble Sound Laboratory) : 中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

の英語の調子をチェックできたし、同じクラスの中での自分の位置を知る指標にもなりました。記憶が新鮮なうちに解説を受けられるので、解説にも自然に集中できました。

僕は、復習の中心を要約で扱った英文の音読に絞っていました。要約演習のB5用紙1枚を深く掘り下げながら音読していましたが、これを1年間継続したら英語の力がものすごく伸びました。

田浦：読解の授業でも英作文の授業でも、最初に問題を解いて、直後に添削されて返却していただけたのが良かったです。できていたらうれしい、できていなかったら「どこができなかったのか？」と思って先生の話を中心して聞けます。できてもできなくてもモチベーションアップにつながりました。

白石：音読は大切だと思います。だから、修学旅行先でもディズニーランドでも、友達と音読していました(笑)。グノに入塾した当初は文法のテキストが中心でした。その時、先生から文法のテキストを声にだして読むように言われて、Sentences for Workoutを音読するようにしました。その結果、口も頭も英語の

リズムで回るようになりました。

ニューヨークから帰ってきてからは、インターナショナルスクールの英語力を保持するクラスに通っていましたが、そこは座学重視で中学受験や高校受験を目指す雰囲気がありました。「音読をやるといい」とは誰も教えてくれず、そのため英語を話す力も英語で考える力も衰えてしまったんです。貴重なニューヨークでの経験が無駄にしかけていましたが、グノに救われました。

畑：音読は大切です。特に高3の冬期講習が終わってからの受験直前期は、GSLを全部ウォークマンに入れて集中して取り組みました。そのお陰で、入試本番は数学で失敗しましたが、英語は手応えをちゃんと感じられる結果になりました。音読のお陰で、安定した英語力が身についたと思います。

田浦：僕も高3になってからは、最寄り駅と家の行き帰りの道でGSLを聞きながら、口を動かすのを習慣にしていました。授業で扱って意味を理解している英文を耳や口を使って何度も繰り返して復習することで、単語などの知識も定着させられましたし、英語の感覚を研ぎ澄ましていくこともできました。

浅野：他塾でも音読を勧められることがあります。やるかどうかは本人任せです。効果の上がる英文や音声も準備されていて、やり方まで具体的に指導してくれるのはグノだけだと思います。

先生からは、「GSLを使って耳と口を鍛えるのは肉体的訓練。人に英語のまま伝えるつもりの音読は頭の訓練」で、どちらも大切だと言われていました。また、「語学は楽器やスポーツの練習と同じだから毎日繰り返そう」とも言われていました。

中田：実際、私も気に入った英文を数十回読み込んでいました。読み込んでいくうちに活き活きと読めるよ

うになるし、演習時に読み飛ばしていた箇所にも気づけます。音読をしていると、英語の感性が磨かれていくと思います。授業でも、「音読をきちんとしている人なら、ここは読み間違えないと思います」と先生がおっしゃることもあって、音読の成果を確認できる機会がよくありました。



畑 史織さん (東京医科歯科大・女子学院)

畑：頭で理解しているだけのことと、体になじんでいることは全然違うことだということを、グノの音読を通して実感していました。音読を習慣化できていなかった時期は、読み間違えたり浅い読み方しかできていなかったりで、要約でもいい点数はとれていませんでした。音読を習慣化したら、要約でもいい点数がとれるようになりましたし、医科歯科大の長い英文をしっかりと読む「英語体力」みたいなものも培えたと思います。

音読の前提には、授業があります。授業中に残したメモや、蛍光ペンで線を引いたトピックセンテンスなどを見ながら、メリハリをつけた音読をすると効果が上がるのだと思います。

白石：音読は授業あつてのものです。



浅野 峻さん (千葉大・筑波大学附属駒場)

グノでは、例えば、科学者の研究の紹介や文豪の書いたエッセーなども英語で読みます。自分一人であた読んでも、何も内容を理解できないことはよくありました。背景になる知識や経験が読み手に欠けていると解釈できません。皮肉表現が見抜けないうことや、伏線が張ってあることを見落としてしまうこともあります。そういう気づきにくい点まで先生が授業で指摘してくださいます。

学年が上がるにつれて、授業で扱う英文の深さも増していきますが、先生の解説が巧みなもので、苦しまずに楽しく授業を受けられました。解説を聞いて十分に理解できている英文を繰り返し音読すると、僕たちの中に英文がなじんでいき、読解力の向上につながっていくのだと思います。

グノーブルの数学

畑：中3の時は、解けたら手を挙げて先生に見てもらいながらどんどん進めていこう、という授業でした。最初は補習クラスだったので、どんどん解けて「私、意外といけるじゃん！」と思っていました。その後、クラス分けを経て上のクラスに上がってからは、周りの人たちと比べて、「私、解けないじゃん！」となりましたが、この時期に楽しく解かせ

てもらえたお陰で基礎が固まったのだと思います。

白石：グノの数学は、先生に直接アウトプットするところを見ていただけるのが特長です。中学の時は先生がノートを見てくださり、学年が上がってもテスト演習の答案などで先生が一人ひとりのアウトプットを見てくださいました。解けない問題や考え方がわからなかった問題も多かったのですが、そういう時も先生が的確な助言をくださいました。

畑：高3になってからは、セルフチェックシートで自分のミスを確認できたのが勉強になりました。最初はそのシートを書くだけでかなりの時間が掛かりました。問題を解くよりも時間が掛かったくらいです。

でも、ケアレスミスが多い私には、その作業はとても役立ちました。問題を解く最初の段階で、面積を求める対象の図形を間違えるというような根本的なミスを、「ケアレスミスだから仕方ない」と思っているだけでは、ミスはなかなかありません。セルフチェックシートにミスの内容を具体的に記述し、何を心掛けるべきかを書くことでミスを減らしました。そのうちに、自分の傾向を一般化し、それに対しての心構えも書くようになっていきました。

白石：セルフチェックシートは一目見ただけで、解いた問題を一気に復習できるメリットがあります。書くのに時間はかかりますが、時間をかけた分だけ受験直前に生きてきます。トータルで見ると時間の節約になりますし、数学の力も身につきます。

最初は何を書いたらいいかわからなくて、具体的なことに終始していました。でも、毎週書いてみると、一般化できるようになっていきました。先生は一般化できているセルフチェックシートを「大人のチェックシート」と呼んでいらっしゃいました。その言葉が僕の心に刺さって、

「大人になろう！」と思って極力具体的なことから一般性を帰納的に引き出して書くように心掛けました。

僕は札幌で受験したので、荷物をたくさんは持って行けませんでした。セルフチェックシートは持っていました。直前でどうしても不安になる時、セルフチェックシートを最初から読んで、高校時代の楽しかったことや悲しかったことも振り返りつつ、自分が歩んできた数学の道を見直していました。

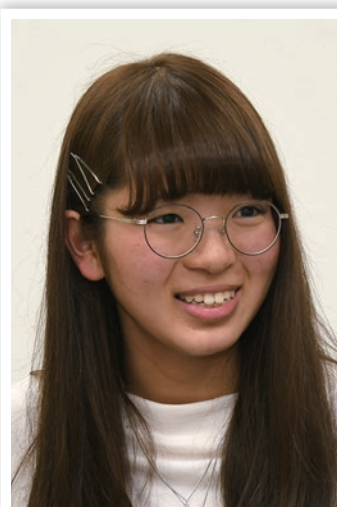
グノーブルの小論文

畑：グノでは小論文も受講していました。先生は、最近のニュースなどについて「知っていることある？」と生徒に聞いた後、それに関連する話をいろいろしてくださいました。雑学教室みたいな側面もある授業で、先生のお話が楽しかったです。

授業ではいろんな方面への興味が湧いたり、素養のようなものが身につけられただけではなく、論理的な文章の書き方も教わりました。「第一段落はこのくらいの分量でこういう内容を書く」といった型を提示していただけて、その型に倣って文章を組み立てる練習をしていきました。文章を書くのが得意でなかった私でも論理的な文章をたくさん書けるようになりました。



白石 耕太郎さん (北海道大・海城)



中田 理々子さん (群馬大・見華学園)

グノの小論文で習ったことは、私大の小論文だけでなく、面接でも役立ちました。

グノブルの先生

浅野：受験指導をしてくれる人としてはもちろん、教育者として、知識人として、人間としてあらゆる面で尊敬できる先生の存在は大きかったです。「こんな大人になりたいな」とずっと思っていました。



田浦 弦太さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

白石：同感です。とにかくいろんな魅力をお持ちの先生がグノにはそろっていて、大学入試という目標を実感していなかった中学時代も、「来週も先生の話を聞きたい」とか「先生に自分のことを話したい」とか、そういう気持ちでグノに通えました。先生方は人生の先輩として話を聞いてくださいました。友達とずっと残って先生と話していたこともあります。お陰で、抵抗感なく勉強に取り組みました。

田浦：印象的だったのは、高3カリキュラムの初回授業で、そのクラスを初めて担当される先生がクラス全員の顔と名前を添削が終わった時にはもう覚えていらしかったことです。生徒にかける情熱がすごいと感じました。

畑：先生方は最初の授業で顔と名前

を覚えてくださいますが、それだけではありません。私は高3の直前講習の時、高校生になってからは教わっていない先生と久しぶりに会いたんです。そうしたら、「畑さん！」と覚えていてくださって声をかけていただけました。とてもうれしくなりました。

中田：私も畑さんと同じ経験があります。今年合格の報告に行った時、1年半くらい会っていなかった先生に声をかけていただきました。グノの先生方は、しばらく会っていない生徒のことも忘れていないんです。そのくらい生徒思いの先生ばかりで、生徒に対して真剣に向き合っていて、同じ目線に立ってくださいます。

白石：そういう意味で、グノの先生方は、僕にとってカウンセラーみたいな存在でもありました。高校3年になると目標が目の前に迫ってくるので、精神的に厳しくなります。そんな時は、先生方が空いている時間に話を聞いてくださいます。数学の先生に至っては、僕のためだけに北大の問題を50年分さかのぼって分析した上で、的確なアドバイスをくださいました。

中田：私は受験直前期に先生に添削を頼みました。夕方に出した添削がその夜のうちにメールで返ってきてびっくりしました。こんなに早く対応してくださる先生方は、本当に生徒思いです。他塾では、先生と添削をメールでやりとりすること自体考えられません。

畑：どの先生も添削が丁寧で、感謝の気持ちしかありません。数学のセルフチェックシートやテスト演習の添削が速達で送られてきたこともあって、本当に驚きました。質問した時も、模試のことを相談した時も、親身になっていろいろなアドバイスをくださって、とても助かりました。

グノブルの環境

白石：傘を貸していただけたのがありがたかったです。夏のいきなり大雨が降った時、先生が「傘を持って行ってください」とおっしゃっていて、グノから濡れずに帰ることができました。グノには、にわか雨に備えて傘がたくさん用意されているんです。それから、グノは他塾に比べて教室が明るくてすっきりしているので、気持ちも明るくなれたし、勉強だけに集中できました。

畑：私は高1高2で部活が忙しかった時期、振替を利用させてもらいました。夏休みはほとんど毎日レッスンが入っていて、なかなか時間を調整できませんでした。その時は2日で1セットになっている講習を1日単位で分割して、7月と8月に割り振るなど、ぐちゃぐちゃに振り替えました。それでも受付の方は全然嫌な顔をせずに対応してくださいました。定期テスト期間中は、通常月曜日に通っていた授業を金曜に振り替えることもありました。振替の自由が利くことがとても良かったです。他塾では振替の授業はなく、代わりに画質の悪い映像は見られましたが、効果は全く違いました。

浅野：筑駒は高3の11月に文化祭があって、行事と塾との両立が難しいんです。でも、同じ週の中ならど



中田 理々子さん（群馬大・見華学園）



畑 史織さん（東京医科歯科大・女子学院）

こでも振替可能なグノだったので両立が可能でした。受付をはじめ、職員の方々全員が優しくかったし、教室もきれいで、環境的にも素晴らしかったです。

田浦：僕も文化祭の準備が忙しかった高3の10月は大変でした。でも、グノだと後コマに出られるし、振替も自由が利いたので助かりました。

中田：私も突然体の具合が悪くなって、当日の授業開始1時間前くらいに受付に電話をしたことがありましたが、受付の方から「お大事に」と優しく言っていただけました。

空き教室が自習室になるのも良かったです。誰もいない教室で自分一人だけで自習できることもあって、とても集中できました。

後輩へのアドバイス

白石：1日15分でも30分でもいいので、自分で気づいた自分の課題への対策をコツコツやってください。毎日コツコツ自分で工夫しながら積み上げることで気持ちの余裕も生まれます。直前期には細かなことがたくさん気になって気持ちが揺らぎます。「この問題ができなかった」とか「ここで計算をミスした」とか……。でも、それまで積み上げてきたことがあれば、その事実が自分を支えてくれます。目の前の細かなことから

視野を広げて、自分が歩んできたことを振り返って、「あんな課題もこんな課題も乗り越えてきた」と自分に言い聞かせられるように、コツコツやることをお勧めします。

田浦：理科やセンター試験対策は高3でがんばるとして、高2までに英数を固めておくことが大事です。高3になってからも英数を伸ばすことはできますが、他の科目にリソースを割かなければならなくなるので、それまでに土台を築いておかないと厳しいです。逆に土台が築かれているものは本番で活きます。僕はセンター試験の理系科目を大失敗しましたが、英語の筆記は満点、リスニングも1ミスで救われました。

中田：医学部志望の人は、とにかくセンター試験対策をきちんとすべきです。私の場合はセンターの国語で全然得点できなくて、浪人時も現役時と変わらない点数でした。第一志望の二次試験すら受けられず、とても悔しい思いをしました。センターで良い点数をとれば、国立医学部の合格はある程度決まります。けっして、「センターは運が良ければいける」と思わずに、文系科目をおろそかにしないで勉強してください。

畑：やはり、早いうちに英語と数学をある程度できるようにした方がいいです。英数で「これ以上は下回らない」というラインを作っておくと、安心して受験できるからです。それから、グノは宿題が多くないので大丈夫だと思いますが、学校の授業で塾の内職をやるのは良くないと思います。学校生活も塾の勉強も両立すると、勉強面でも力がつくし、荒んだり不安に苛まれる心も穏やかになるはずですよ。

浅野：僕が1年間の浪人生活で実感したのは、先生や友人、家族など、多くの人たちに支えられているということです。家族には1年分多く学費を払ってもらっていますから、勉

強しなければいけないのはあたりまえですが、僕もコツコツやっていけば絶対力になると信じて、毎日がんばっていました。でも、時々本を読んだり、映画を見たり、博物館に行ったりという時間は必要です。「浪人すると成長する」と言う人がいますが、ただ浪人しただけでは成長しません。勉強しつつも視野を広げていくことで、1年間与えられた時間を有意義なものに変えられます。

特に、医師は人の生死を扱う職業ですから、医学部は安易に選択していい学部ではありません。東大なら2年間のモラトリアムがありますが、医学部にはそれもあります。18、19歳で決めるのは難しい学部ですが、だからこそ、僕はこの1年間でたくさんのことを考えました。貴重な経験ができたと思っています。

グノーブルの授業は、 皆さんと私たちの合作。

一方通行の解説ではないので眠くなることはありません。

- 「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- 授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- 演習直後の解説は、私たちと皆さんがやり取りしながら進めます。
- 皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。

熱中できる仕組み、質問も相談もすぐにできる環境を実感してください。

大学受験



Gnoble

大学受験 グノーブル

難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりサポートしていきます。

中学受験



Gnoble

中学受験 グノーブル

難関中学を目指す小学生

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。学習したい教科や志望校別のクラスが選択できるなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお応えしていきます。

個別指導



GnoLink

個別指導 グノリンク

難関校を目指す小学生～大学受験生

生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制を提供します。中学受験グノーブルと並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

英会話



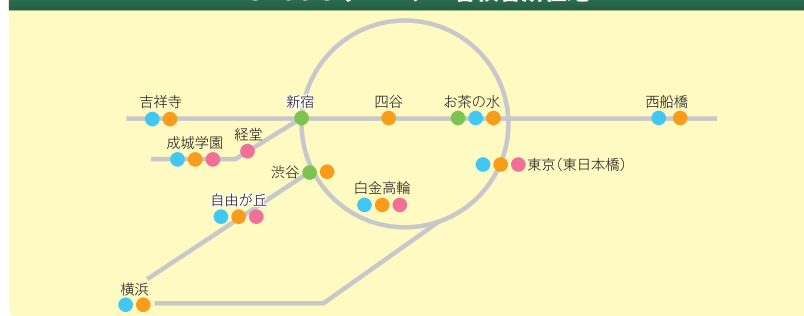
GnoKids

英会話 グノキッズ

0歳児～小学生

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、親しむことができます。ご家庭での学習も配慮した教材で、継続的な学習を無理なく行うことができます。

Gnoble グループ 各校舎所在地



Gnoble
GROUP

大学受験 **グノーブル**
個別指導 **グノリンク**

中学受験 **グノーブル**
英会話 **グノキッズ**

グノーブル総合案内

www.gnoble.com